

第1回 南砺の地域医療を守り育てる会(発足会)を終えて

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城清二（富山大学附属病院総合診療部）



守り育てる会 山城会長

平成21年10月から12月にかけて開催された「南砺市地域医療再生マイスター養成講座」の修了式の際、「南砺の地域医療を守り育てる会」の発足を提案したところ、多くの方々から絶大なる賛同を得ることができました。今回はその発足会として平成22年2月5日(金)午後6時30分より南砺市役所福野庁舎2階講堂において、第1回の「南砺の地域医療を守り育てる会」を開催しました。前半の基調講演には、聖路加国際病院副院長で小児科医の細谷亮太先生に「地域における小児医療」について講演していただきました。そして、後半では活動の報告および会の理念や方針について議論しました。



小児がんの専門医として高名な細谷先生ですが、今回は「守り育てる会」の趣旨に合わせて、ご自身の専門領域の内容ではなく、一般的な地域における小児医療についてお話いただきました。ここにご講演の一部を紹介します。

- ・ 小児科医を選んだ理由として、医師には2つのタイプがある。自分より下の若い人を診る人と自分より上の年配の人を診るタイプ。ご自身は前者であったとのこと。
- ・ 小児科医が増えない理由として、昨今の親御さんの要求が高く厳しいこと、また小児診療の医療費が安価で予算が付かないこと等が挙げられる。
- ・ 小児科医を増やすには、育児と仕事を両立せざるを得ない女性医師を尊重すること、また女性が働きやすい環境を整えること、さらに医療について医療従事者と住民はもっと積極的に国へ提言すること。
- ・ 身近で死を経験することがなくなったので、死への共感がなくなり、自分中心の要求ばかりする人が増えた。
- ・ 子どもの成長過程においては、いろいろな価値観に触れさせることが大事。お父さんとお母さんの考え方が違って構わないし、様々な考えに触れさせ、難しい思春期は見守り、自立へみんなが協力することが大切。自立へと向かう段階では周りのみんなが協力することが大切。
- ・ 子どもは地域で育てる。昔は地域全体で子どもを育てていた。その中に障害を抱えている子どもがいてもみんなで育てた。



聖路加国際病院 副院長 細谷亮太先生

- ・ 少子化と言われているが、どれくらいの子どもの数が適正かは調査されていない。
- ・ 少子化対策のプロジェクトによる提言（配布資料より）

I. 子どもたちが心身ともに健やかに育つための子育て支援

1. 小児救急診療体制の充実
2. 小児医療・小児保健関係者の地域保健および育児支援活動の学習と参加
3. 地域の子育て連携の構築
4. 養育者に対する子育て支援
5. 要保護児童の健やかな育ちの保障

II. 予防可能な疾病・事故に対する取り組み

1. 麻疹の制圧
2. 小児の事故防止
3. 子どもへの無喫煙環境の提供
4. 子どもとメディアの関係の見直し



細谷先生の講演を聴いて思ったことは、「守り育てる会」の我々は何ができるであろうかということ。一つには、子どもが生き活きと生活でき、安心して遊べる環境作ること。そして、もう一つは予防活動でしょうか。予防活動には、地域での事故防止、交通事故対策（チャイルドシート装着の徹底）、無喫煙環境の提供、さらには各種の予防接種の啓蒙などがあります。安心して遊べる環境作りには、お母さん方の女性パワーはもちろんのこと、お父さん方の男性パワーも必要ではないでしょうか。



さて、後半では4件の活動報告がありました。「兵庫県立柏原病院の小児科を守る会」を視察して来られた連合婦人会の発表には、その真剣さに感動しました。また、五箇山グループと認知症について取り組むグループには、今後の活動が期待されます。私も家庭医・総合医の育成に更に気を引き締めて臨まなければならないと感じました。

会の終わりには、「守り育てる会」の理念と今後の方針について私の方から提案しましたが、特に反対意見もなく、むしろ多くの賛成を得て次のように決定しました。

「南砺の地域医療を守り育てる会」の理念

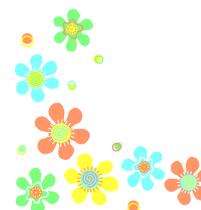
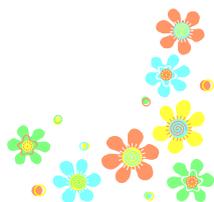
- ① 学びましょう
- ② 討論しましょう
- ③ 連携しましょう
- ④ “自分ごと”として行動しましょう
- ⑤ 若い人を育てる「教育空間」を作りましょう
- ⑥ 子どもとお年寄りにやさしい地域を作りましょう
- ⑦ 住みやすい町にしましょう



今後の方針

- ① 無理しない会（一部の人に負担がかからない。ひとりでがんばらない）
- ② 学んで自由に討論ができる会
- ③ 自分から行動する会
- ④ 会の企画をみんなで応援する（継続は力なり）
- ⑤ 第2回守り育てる会の講演会（4月24日（土）午後）、平成22年度地域医療再生マイスター養成講座を秋期に計画
- ⑥ 暫くは組織化しない。（会則など作らず、緩やかな会とする）

最後に、地域医療の課題に取り組めば取り組む程、医療以外の地域の課題に密接に関係することが分かってきました。そこで、「守り育てる会」の目標は、先程の理念とも重なりますが、行動する人作り、教育空間作り、そして住みやすい町作りにしたいと思います。皆様、様々な課題を他人事にせず、自ら行動する人になり、一緒に活動していきましょう。



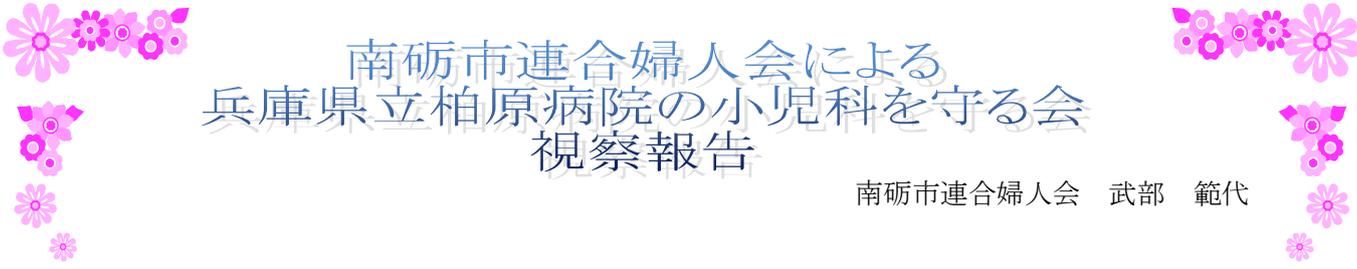
第2回 南砺の地域医療を守り育てる会のご案内

- ◆日時：平成22年4月24日（土）午後1時30分～4時
- ◆場所：福光地域で開催を予定
（住民や南砺市職員に幅広く広報し、多数の集客が可能な施設）
- ◆内容：1部：特別講演
講師 岩手県国保藤沢町民病院長 佐藤元美 先生
テーマ：地域包括ケアに関すること
2部：討論



岩手県国保藤沢町民病院長 佐藤先生

岩手県藤沢町福祉医療センターは、医療と福祉・健康づくりを一本化し、医療と保健と福祉が連携して地域包括ケアを実践している組織です。地域医療の再生では、全国から注目されている地域で、総務省が公的病院経営改善事例として紹介しています。そのトップの佐藤元美先生をお迎えして是非みんなで勉強いたしましょう。



南砺市連合婦人会による 兵庫県立柏原病院の小児科を守る会 視察報告

南砺市連合婦人会 武部 範代

南砺市連合婦人会では、「地域医療を守り育てるために」私達にできることは何かを考える参考になればと、兵庫県丹波篠山市に「県立柏原病院の小児科を守る会」を視察研修しました。

研修にのぞむにあたり、まず南砺市の地域医療の現状を知ることにも必要と考え、目的地に向かうバスの中で、①市の概要、②公立病院の状況、③市の取り組みの特徴、特に地域医療再生マイスター養成講座の内容など資料を配布し、事前勉強を行い、会員の情報の共有、意識の高揚を図り、「守る会」との交流にのぞみました。その状況をビデオで紹介したいと思います。(ビデオ上映)

このように研修が行われたわけですが、実は私たちが最も感動を受けたのは、「守る会」が発足するきっかけとなった出来事です。

【守る会発足の経緯と活動状況】

2007年4月、柏原病院小児科医2名のうち1人が院長に就任し、残る1人の医師が5月末での辞意を表明したということが地元丹波新聞で報じられた。小児科が閉鎖すれば産科の分娩取扱いが休止になる恐れがあるということで市民は大きな衝撃を受けた。

この記事を書いた記者の呼びかけにより座談会に子育て中の母親が参加した。柏原病院の小児科・産科の存続危機を目の当たりにし「そんなの困る」「なぜこんなことになったの?」「これからどうなるの?」などの声上がる中、ひとりの母親の体験談が皆の気持ちを変えることとなった。

夜8時、ぜんそく発作の子どもを連れて夜間救急を受診。すでに30人ほどの子どもが順番をまっていた。深夜2時ようやく医師の診察を受ける。明け方4時、入院が決まり病棟へ移動。明るくなり目を覚ますと、ベッドサイドに「処置しておきました」と小児科医からの置手紙。その日も普段どおりに診療をこなす医師を見た時「先生、寝てないんだ」ということに気が付いた。「子どもの病気のことを考えたら柏原病院の小児科がなくなるんはほんまに困るんや…。でも先生のあんな姿見てらた『辞めんといて』とは、よう言わん…」

『当直明け36時間連続勤務』、『外来、入院、救急、緊急手術の危険な綱渡り』、『患者の無理解によるコンビニ受診』このような医師の過酷な勤務実態を知り、『これ以上「先生頑張って」なんて言えない!』『届かない現場の悲鳴を市民に伝えたい!』と思い、『私たち住民の側にも責任があるのではないか?』と考えるようになった。短期間で結果を出し、なおかつ、この現状を多くの人に伝えるために署名活動を始めた。小児科医派遣を求めるとともに「私たちもコンビニ感覚での受診を控えます」という誓いの言葉を入れ、「安易な病院受診を控えるようにしませんか?」と呼びかけた。





若いお母さん達からこの言葉を聞いた時、私達全員は「目からうろこ」状態で、洗礼を受けた事はありませんが、洗礼を受けたような気持ちになりました。

その後の「守る会」の活動は、①お医者さんに感謝の気持ちを伝えようと「ありがとうメッセージ」カード作成、②コンビニ受診を控えようと小児救急冊子「病院に行く、その前に」を発行、勿論監修は柏原病院小児科にお願いしました。若いお母さん方の活動は、さまざまな立場や年代の住民の皆さんへと広がり、「丹波医療再生ネットワーク」、日赤奉仕団による病院ボランティア、さらには丹波市薬剤師会による「夜間お薬相談電話」など地域あげでの取り組み、行政でも「夜間健康相談ホットライン」を開設し、医師の負担軽減に役立っているとのことでした。そして最後に、医師と住民は、医療を施すものと受けるものという相対するものではなく、ともに力を合わせて地域の医療を作り上げていくパートナーのようなもの、と締めくくられました。

帰りのバスの中では、婦人会全員の気持ちが「お医者さんに感謝の気持ちを伝えたい」「医療に理解ある地域づくりを目指したい」に変わっていました。まさに「地域医療を守り育てるために」私達にできることを考え始めていました。その時のそれぞれの思いがメッセージカードに記され貼ってあります。あのメッセージのイラストのように、今の婦人会活動は芽が出たばかりの二葉ですが、やがては地にどっしり根ざした大樹となるよう、「できる人が、できる事を、できる時に」をモットーに活動していきたいと思っております。



今後の活動にご期待ください。ありがとうございました。



「日本一住みやすい地域 五箇山」



五箇山チーム



昨年10月から12月にかけて計5回開催された「地域医療再生マイスター養成講座」に参加されていた上平、平、利賀の婦人会、女性議会の方や井波在宅介護支援センター、五箇山在宅支援センター、山城先生の7名で「五箇山チーム」を結成しました。

第1回目の養成講座の中で地域の課題についてのアンケートで、五箇山、山間部の医療についてたくさんの方が多くの課題や不安を感じておられる事がわかりました。五箇山では住民相互の助け合いが自然に行われています。しかし近年は少子高齢化や人口の減少という問題があり、この素晴らしい伝統や文化が薄れていく危機感を感じています。各種団体はあるけれども他の団体との横のつながりがほとんどありません。

「五箇山チーム」では、介護を必要としている高齢者やその家族はもちろんのこと、子育てや病気で悩んでいる人、近隣との関わりが減っている人など、小さな子供から高齢者まで全ての住民を対象にしています。住民同士や地域における様々な団体、医療機関や福祉施設などの専門分野とのつながりが強くなり、緊急時にはどうしたら良いか？など様々な情報収集が容易に行え、安心できる生活が続けられるように、活動していこうと思っています。大袈裟ですが、「五箇山全体が大きな家族」となれば良いと思います。いいえ、五箇山という家族になりたいです。また、他の地域の人たちから「ぜひ、五箇山に住みたい」と羨ましがられるような五箇山となるように、自らすすんで活動していきたいと思っています。

現在は、このメンバーでまだ2度ほどしか集まっていませんが、いろいろな意見が出されています。上平地域では、婦人会の会員の方に地域医療についてのアンケートをお願いした報告をしました。その中で多くの方が診療所の有り難さと大切さをあげておられました。診療所の役割の大切さ、私達が求めている診療所が信頼できる先生でちょっとした病気の対応も熱心に診ていただける診療所であって欲しいと願っておられました。身体のケアだけでなく心のケアをしていただいて自宅で介護をすることが出来たと話しておられました。それこそ、在宅医療をするうえでの重要性だと思います。そのためにも、各診療所の連携や病院との情報交換、診療所と家族のつながりが必要だと思います。

現段階ではどうしたら良いかという細かいことは決まっていますが、まずは地域の医療状況などを調べ今後の方向についてしっかりと話し合い、それから地域に広げていきたいと考えています。地域住民の方々に参加していただき、そして良い知恵をいただき、この活動を共に行うことができたらと思っています。いろいろな結びつきから活気ある五箇山になるように取り組んでいきたいです。

総合医の育成

富山大学附属病院 総合診療部 山城 清二

成功の宣言：総合医育成の地域「教育空間」作り

山城清二

ありがたい姿「富山型総合医育成システムの確立」

- 富山の各地域でイキイキと働く若い総合医が育つ
- ・患者のために
何でも相談できる実力のある総合医
 - ・医療者のために
他職種と連携できる思いやりのある総合医
 - ・病院のために
病院総合医として診療と病院運営への参加
 - ・地域社会のために
診療所総合医として僻地や地域の医療・保健・福祉活動へ参加

なりたい姿「南砺市総合医育成システムの確立」

- ・目標(期限付き)
南砺市の「教育空間」で学び、その後一定期間実践する。(最後には定着する)
- ・目標達成の3戦略
 - ①総合医養成の重要性を認識する(マインド)
 - ②南砺市民病院を中心とした研修システムの確立。今年度中にプログラムを完成させる(プロセス)
 - ③南砺市での若い医学生、看護学生、コメディカル学生の現場実習システムの確立(プロダクト)
 - ④市民が若い医療者を可愛がってくれる風土作り(プロダクト)

現状の姿「暗闇の中に一筋の光を見出す」

S(強み)

- ・地域がまとまっている
- ・熱心な医師がいる
- ・連携がとれている

W(弱み)

- ・熱心でない医師もいる
- ・連携が弱いところもある
- ・自ら行動する人が少ない

O(機会)

- ・研修機会がある
- ・連携をとる機会がある

T(脅威)

- ・専門医が減少している
- ・診療科の閉鎖
- ・病院の縮小

実践の姿「明るい未来に向かって歩きだす」

- ①毎日やる事: 医師不足の情報収集(インターネット検索)
- ②毎週やる事: 総合医育成の取り組みを考える
- ③毎月やる事: 実践的な総合医養成プログラム作り
- ④每期やる事: 総合医養成プログラムの普及
- ⑤毎年やる事: 総合医の募集
- ⑥3年毎にやる事: 実践する医師を増やす
- ⑦10年毎にやる事: 軌道にのる

やったこと

3年間のセミナーとマスター養成講座

わかったこと: 他人にばかり頼らず、自分も汗水垂らして頑張ること

やること: オンリーワンを目指す。南砺市を日本一の教育空間にするぞ!

まちの病院に必要なこと

地域医療再生への処方箋(伊関友伸著)より

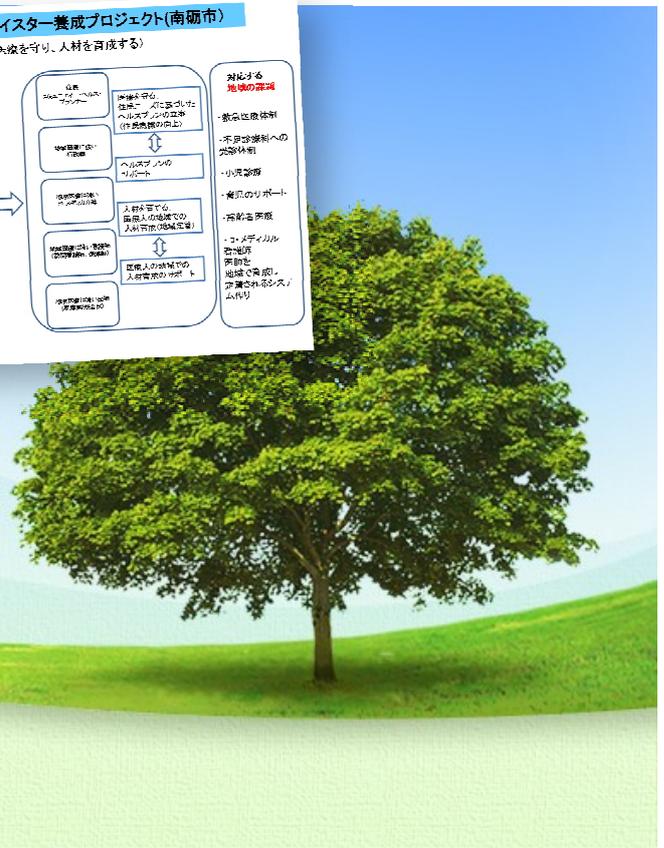
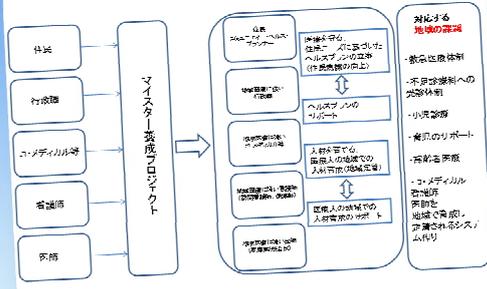
- ①医療と福祉・健康作りの一体化
- ②本当に医療法上の病院が必要か
- ③地域での総合医・家庭医の養成
- ④医師が納得して働ける環境づくり
- ⑤中核病院としての役割
- ⑥かかりつけ医・医師会との連携
- ⑦行政の役割
- ⑧行政と医療者のコミュニケーション
- ⑨行政内のコミュニケーション
- ⑩住民の役割
- ⑪意識改革(お客様ではなく、当事者になる)
- ⑫医療の消滅は地域の崩壊と同じ病理
- ⑬地方議会の役割
- ⑭現状を理解すれば推進者、不勉強ならば破壊者になる



「地域の医療は地域の住民が守る」以外にはない

地域医療再生マスター養成プロジェクト(南砺市)

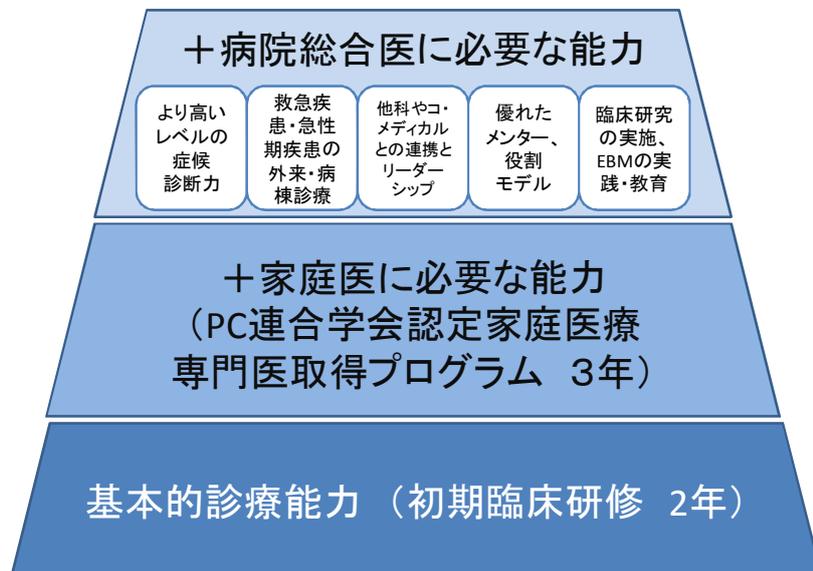
(地域全体で快楽を守り、人材を育成する)





総合医(Generalist)の育成

家庭医family medicine+病院総合医hospitalist



日本プライマリ・ケア連合学会 (2010.4月に発足)

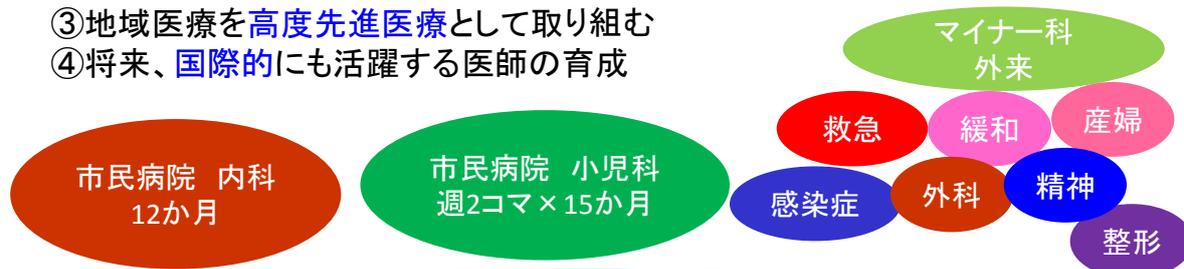
富山大学総合診療部・南砺市民病院
家庭医/総合医育成—後期研修プログラム

NANTO家庭医養成プログラム

プライマリ・ケア連合学会による後期研修プログラム

理念:

- ①標準的な家庭医の育成
- ②南砺地区の地域医療を守り育てる
- ③地域医療を高度先進医療として取り組む
- ④将来、国際的にも活躍する医師の育成



診療所研修

南砺市の診療所群(南砺家庭地域医療センター、上平診療所、平診療所、利賀診療所)、ものがたり診療所、白川診療所
6か月

「認知症の人や家族が安心して暮らせる地域づくり」を目指す会

南砺市地域包括支援センター

南砺市地域医療再生マイスター養成講座に参加し、私たちは「認知症の人や家族が安心して暮らせる地域づくり」を考えました。

市の65歳以上人口が30.1%を占め、認知症の方が65歳以上の人口の11.2%を占めています。今後ますます認知症の増加が危惧されます。

今後、認知症の人や家族が安心して暮らせる地域づくりの実現をめざしたいと考えました。包括支援センターでは、会に向けて1度内部で話し合いを持ちました。

そこで、この会を地域包括支援センターだけでなく市全体の取り組みとして発展させようと考え、包括支援センターから皆様に提案します。

「認知症の人や家族が安心して暮らせる地域づくり」のために考えている戦略は次の3つです。今後、話し合いの中で修正もしていきたいと思います。

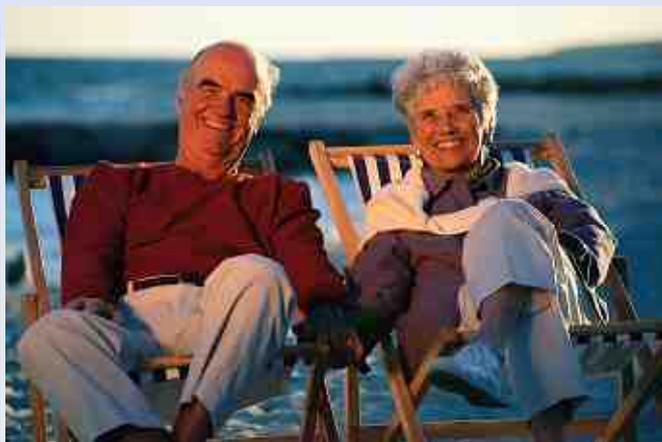
戦略1 認知症に関する正しい知識の普及をして地域の人に理解してもらう！

戦略2 本人・家族を支えるための見守り・声がけできる地域組織づくり！

戦略3 徘徊等の問題が発生した時に、迅速に安全確保できる連絡網をつくる！

第1回目は3月12日(金)午後6時30分から1時間程度の予定です。以後、月1回(第2金曜日)開催予定です。会は地域包括支援センター内会議室で行います。お申し込みは地域包括支援センターまでご連絡ください。

共に仲間として認知症を考えて行きましょう。皆様の参加をお待ちしております。よろしくお願いいたします。



認知症の人や家族が 安心して暮らせる地域づくりを目指す会に加わりませんか？

- 戦略1** 認知症に関する正しい知識の普及をして地域の人に理解をしてもらう！
- 戦略2** 本人・家族を支えるための見守り・声かけできる地域組織をつくる！
- 戦略3** 徘徊等の問題が発生した時に、迅速に安全確保できる連絡網をつくる！ などなど…

共に考え共に歩む仲間を募集しています。

熱意ある方・興味のある方、是非ご参加ください。

お待ちしております！！

日時：3月12日（金）午後6時30分（1時間）

以降は月に1回（第2金曜日）開催予定

場所：地域包括支援センター内会議室

みんなの力で地域を変えよう！
認知症になっても、怖くない！！



参加希望の方は南砺市地域包括支援センター 武部・宗井・武種まで

第2回 南砺の地域医療を守り育てる会(発足会)を終えて



守り育てる会 山城会長

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城清二（富山大学附属病院総合診療部）

去る4月24日に第2回「南砺の地域医療を守り育てる会」が開催され、第1部は岩手県の藤沢町民病院の佐藤元美先生に講演していただいた。テーマは「地域で考えたこと・実践したこと」。



岩手県国保藤沢町民病院長 佐藤先生

佐藤先生は1993年から藤沢町民病院の院長として様々な試みを実践し、現在では全国から注目される地域医療のモデル病院を作り上げた方である。今回、先生の講演から学んだことを一部ではあるが簡単にまとめてみた。

- 病院の理念「忘己利他（もうこりた）」（最澄の言葉で、悪事向己 好事与他 忘己利他 慈悲之極（悪事を己に向え、好事を他に与え、己を忘れて他を利するは、慈悲の極みなり）
- 昼と夜の差がない救急医療を目指して病院作りをした。そして、医療の質を高め、その努力を維持するために第三者評価を受けた。医療の質を標準化するにはマニュアル的医療によって質のばらつきを少なくすることも必要である。
- 医療のモデルとして自己管理型を目指した結果、健康増進外来へと繋がった。健康増進外来の準備として、糖尿病研究会から始め、自分が患者であれば受けてみたい理想の外来を考えるワークショップを開催し、その結論に沿った健康増進外来を開始した。患者を待たせず、すぐに迎え入れ、すぐに採血し、看護師と一緒にセルフチェックをし、行動目標を評価する。外来での基本姿勢は、よく聴く、せかさない、指導しない、喜ばない、怒らない。患者自ら行動する自己管理型モデルの実践である。
- 摂食・嚥下研究会は病院の勉強会から県全体の研究会へ広がる。
- 介護者の会：認知症のためにグループホーム設立の中心となる。
- 病院を飛び出し地域での対話としてナイトスクール、意見交換会を開催した。その結果、市町村合併後の町民病院の存続を不安に感じた町民が「町民病院を支える会」を立ち上げた。
- 地域に必要な医師は地域で育てよう。

【まとめのスライドの内容】

1. 医療の問題でもっとも深刻なのは、供給される医療と望まれる医療との乖離である。



2. 地域での生活を支える医療が必要で、且つ不足している。
3. 医療者と住民が地域で医療を語り合うことで住民にあった医療を作る事ができる。
4. 必要な医療を提供できる医師を育てるため住民こそが医学教育に参加すべきである。

まとめのスライドの如く、地域医療を守り育てるためには、医療者と住民が語り合っその地域に相応しい医療を作り上げること、そしてその地域で人材を育てることを強調されていた。これは我々の会の理念を後押しするような内容であり、今後の活動に対して非常に勇気づけられた感がある。



講演の中にも佐藤先生のお人柄が滲み出ていた。温厚で落ち着いた話し方、決して研修医を怒る事がないことなどなど。またその日は朝から一日行動を共にさせて頂いたが、地域医療について熱く語るも決して奢ることのない雰囲気は人を引き付けてやまない魅力があった。さらには診療内容、医療技術面にも話が及んだが、佐藤先生の臨床能力と経営能力の高さにもあらためて驚き、なるほど人が集まる病院になった訳が伺えた。

やはり、いい病院、いい地域というものは不断の努力なくしては作り上げることは出来ない。従って、少しずつ、わずかな歩みで結構、常に進歩し続けることが大切ではないか。我々も地道に且つ確実に行動していくことが肝要である。「南砺の地域医療を守り育てる会」の活動を佐藤先生に褒めていただき、お調子者の私はさらに元気になり、もっと頑張ろうという気になった。



さて、第2部では、五箇山グループの活動、認知症への取り組み。連合婦人会の活動が生き活きと報告された。このように地域再生マイスター養成講座の修了者がグループで活動してきていることを嬉しく思う。

今後は、7月31日に第3回「南砺の地域医療を守り育てる会」を開催し、9月から今年度地域医療再生マイスター養成講座を開講する予定である。

皆さん、地域医療の課題に対して、これからも他人ごとにはせず我がごととして、地道でもいいから、一步一步確実に歩んでいきましょう。

第3回 南砺の地域医療を守り育てる会のご案内

- ◆日時：平成22年7月31日（土）午後1時30分～4時
- ◆場所：井口社会福祉センター

第1部：特別講演

講師 南砺市民病院長 南 眞司 先生
テーマ：南砺市における「地域医療」について

第2部：事例紹介・討論

講師 富山大学 地域連携推進機構 特命教授 小林 俊哉 先生
テーマ：地域再生の成功例など

南砺市連合婦人会 活動報告

1 取り組みの経緯と活動状況

「タクシー代わりに救急車を呼ぶ人がいる。医師不足の中で公立病院は大変だ。」と医療局からの声を聞き、これは住民の課題であり、みんなで学習していく必要を強く感じたことからスタートする。

① 「市政を学ぶ会」(平成20年8月30日)いのくち椿館

講演「地域医療を守り育てるために」

講師 南砺市医療局管理者 倉知 圓先生

全国的に公立病院が無くなっていくというニュースが聞かれる中、地域医療は住民自らの手で守らなければ危機的状況にあることを理解する。

② 南砺市在宅医療推進セミナー受講

第4回井波 第6回利賀 第7回城端

③ 南砺市地域医療再生マイスター養成講座受講 10名

4画面思考研修やゲスト講師のお話を伺い、市民目線で地域医療を考え、提言や活動につなげるという方法を学ぶ。五箇山チーム誕生。

④ 「兵庫県立柏原病院小児科を守る会」との交流会

(平成21年11月16日)丹波市氷上保健センター

第1回南砺の地域医療を守り育てる会(発足会)での武部範代視察報告参照

「医師と住民は、医療を施すものと受けるものという相対するものではなく、ともに力を合わせて地域の医療を作り上げていくパートナーのようなもの。」という会長の報告に次への課題を意識する。また、会場までの車(バス)中での、「南砺市の医療の現状の学習及び意見交換会」も大きな研修となる。

⑤ 「南砺の地域医療を守り育てる会」講演会受講

第1回(平成22年2月5日)福野庁舎 2階講堂

第2回(平成22年4月24日)福光庁舎別館 3階ホール

「さわやかネットワーク」総会の研修会として受講

2 今後の取り組みの方向

医療従事者の方々の負担軽減になることを考え、活動につなげる。

① 「南砺の地域医療を守り育てる会」の理念⑥、子どもやお年寄りが生き生きして暮らせる地域づくりのために、予防活動や健康づくりの推進に努めたい。

② 「兵庫県立柏原病院小児科を守る会」で学んだ「ありがとうカード」の利用を考え、医療の実情を学ぶと共に医療従事者の方々へエールを送りたい。

五箇山グループ 活動報告

五箇山グループの山崎です。

3月13日、平婦人会の定期総会の後に山城先生に〔山間部の地域医療を守るには〜婦人会と住民のパワーが必要です〕という演題で講演していただきました。会場には婦人会だけでなく、自治振興会の会長さん、地元の市議会議員さん、行政センター長さんや住民の方々にも聞きにきていただきました。まずは最新の機械を使ったゲームで緊張を和らげていただいて、というのは当日テレビ局が取材に来られたので、先生が配慮して下さったのだと思います。

最初に先生から医師不足問題やそれに対応して3年前から南砺市各地で開催されてきた在宅医療推進セミナー、昨年秋に始まったマイスター養成講座をうけての南砺の地域医療を守り育てる会の発足までの経過とねらいなど説明していただいたあと、医学生さんや研修医さん達が前に出て自己紹介されました。その後婦人会からの質問でどのようなお医者さんになりたいか、また逆に学生さんからはどんな医者になって欲しいか質問もありました。このようなやりとりの中から私達は学生さん達の前向きな考えに大変頼もしく思い、また学生さん達には住民の熱意を少しは感じていただけたのではないのでしょうか？後で講演会の感想を何人かの方に聞いてみたところ、難しかったところもあったが、自分達の地域の医療は自分達で守っていかななくてはいけないということはなんとなくわかったが、では具体的にどうすればいいのかがよくわからないという人が多かったようです。今回の講演会をきっかけとして今後も地元の人達に地域医療についての働きかけをしていくことが五箇山グループの役目だと思います。

夜の交流会では地元の若者達や上平婦人会の方々も参加して民謡を楽しんだりザックバランに地元の話や医療のことなど意見交換できたと思います。

話は少しさかのぼりますが、平婦人会では2月に講演会に先立ち会員の皆さんに地域医療について思っていることを自由に書いてもらいました。一部紹介させていただきたいと思います。

- * 地元で診療所があることはとても助かります。特に家族に高齢者がいると移動時間や待ち時間がほとんどなく家族にとっても本人にも負担がない。
- * 地域医療は地元の医師と住民の間に信頼関係がないと成り立たないと思う。
- * 小児医療には不安もあるが自分でも子どもの急な発熱にも冷静に対応できるようにいろいろなサービスを活用したい。気軽に受けれる講習会があればいいと思う。
- * どこに住んでいても皆が同じ医療、介護を受けられる世の中になるといいですが、思いだけではなかなか進みません。自分にも何かできることがあればお手伝いしたいと思っています。お金、人、気持ちがあればできるのでしょうか？今どんなことが問題となっているのか、それを解決するにはどうしたらいいのでしょうか？ などです。

他にもいろいろ皆さんから意見が出されましたのでこれらの意見を無駄にせず次への活動に生かしてゆきたいと思います。ある方が（今まで人ごとのように思っていたけど自分達のことだということに気付かされました。何かあれば参加を呼びかけてくださいね）と言ってくださいました。身近にいる人から自分ごとと思える人を少しずつ増やしていければいいなと思います。今後の活動の方向はまだ具体的には決まってはいませんが、守り育てる会の理念である、学び、討論し、連携し、行動する、ということを実践したいと思います。



参加者名簿

NO.	所属	マイスター	氏名	4/24第2回	2/5発足式
1	南砺市議会		斉藤 光一	○	○
2	南砺市議会		前田 美好	○	○
3	南砺市議会		向川 静孝	○	○
4	南砺市議会		石崎 俊彦	○	○
5	南砺市議会		水口 秀治	○	○
6	南砺市議会		河合 常晴	○	
7	南砺市議会		榊 祐人	○	
8	南砺市議会		川辺 邦明	○	
9	南砺市議会		高田龍司郎	○	
10	南砺市議会		山田 勉	○	
11	南砺市議会		助田 幸雄	○	
12	南砺市連合婦人会	※	大塚 千代	○	○
13	南砺市連合婦人会	※	山崎 智子	○	○
14	南砺市連合婦人会	※	荒岡恵津子	○	○
15	南砺市連合婦人会	※	武部 範代	○	○
16	南砺市連合婦人会		関 勝美	○	
17	南砺市連合婦人会		前田久美子	○	
18	南砺市連合婦人会		西村 貞子	○	
19	南砺市連合婦人会		野原 恵子	○	
20	南砺市連合婦人会		藤田 和美	○	
21	南砺市連合婦人会		澤田千恵子	○	
22	南砺市連合婦人会		荒木 清美	○	
23	南砺市連合婦人会		長谷川邦子	○	
24	南砺市連合婦人会		木本るみ子	○	
25	南砺市連合婦人会		小林与志子	○	○
26	南砺市連合婦人会		尾田 典子	○	
27	南砺市連合婦人会		六反恵美子	○	
28	南砺市連合婦人会		久田登世子	○	
29	井波婦人会		山本 英子	○	
30	平婦人会		吉田 珠乃	○	
31	南砺市女性議会	※	長井久美子	○	○
32	南砺市女性議会	※	山本 紀子	○	○
33	南砺市女性議会	※	仲村 朋子	○	
34	さわやかネットワーク		池田恵里子	○	
35	さわやかネットワーク		岩腰 祥代	○	
36	さわやかネットワーク		舘田美智子	○	
37	さわやかネットワーク		吉江 哲子	○	
38	さわやかネットワーク		長谷川弓子	○	
39	さわやかネットワーク		梶井美恵子	○	
40	さわやかネットワーク		長谷川和子	○	
41	さわやかネットワーク		作農 啓一	○	
42	さわやかネットワーク		竹田 洋子	○	
43	南砺市北市ヘルスポランティア		橋場 明子	○	
44	南砺市北市ヘルスポランティア		橋場 君子	○	
45	万歩会		西頭 俊男	○	
46	万歩会		木戸 正春	○	
47	万歩会		岩崎 良治	○	
48	あゆみの会		守山 知範	○	
49	あゆみの会		伊京 俊夫	○	
50	薫の会		北 厚子	○	
51	一般		中川 昇子	○	
52	一般		長谷川澄子	○	
53	一般		浅田 和幸	○	
54	一般		松平美智子	○	

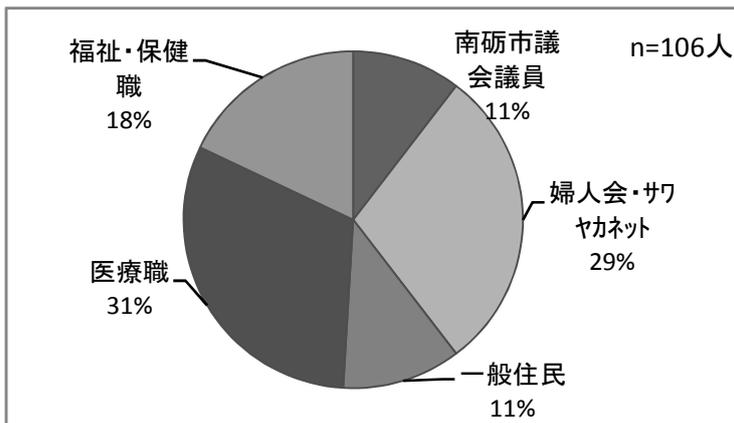
参加者名簿

NO.	所属	マイスター	氏名	4/24第2回	2/5発足式
55	富山大学附属病院	※	山城 清二	○	○
56	富山大学附属病院	※	小林 直子	○	
57	富山大学附属病院		北 啓一朗	○	
58	榑谷整形外科医院		中川 博光	○	
59	旅川居宅支援事業所	※	山本妃都美	○	○
60	旅川居宅支援事業所	※	岩倉美穂子	○	○
61	旅川居宅支援事業所		山田由紀代	○	○
62	旅川居宅支援事業所		宮崎 紀子	○	○
63	市民協働課		坂本 秀忠	○	
64	市民協働課		高田 良晴	○	
65	南砺市民生部長		三谷 直樹	○	
66	南砺市福祉課		水上 正光	○	
67	南砺市福祉課	※	宗井由栄子	○	○
68	南砺市福祉課	※	吉田 雅彦	○	
69	南砺市福祉課		丹羽 統夫	○	
70	南砺市福祉課		石崎 裕子	○	
71	南砺市福祉課		亀田 明子	○	
72	井波在宅介護支援センター	※	藤井 公香	○	○
73	五箇山在宅介護支援センター		金兵 留美	○	○
74	南砺市健康課	※	五嶋 春美	○	
75	南砺市健康課	※	中原 静江	○	
76	南砺市健康課		清水 哲郎	○	
77	南砺市保健センター	※	井幡 秋美	○	○
78	南砺市民病院	※	三浦 太郎	○	
79	南砺市民病院		南 眞司	○	
80	南砺市民病院		長谷久美子	○	
81	南砺市民病院		重倉 俊子	○	
82	南砺市民病院		岩倉久美子	○	
83	南砺市民病院		竹澤 和美	○	
84	南砺市民病院		吉澤 環	○	
85	南砺市民病院		石岡 威	○	
86	南砺市民病院		堀尾 欣三	○	
87	南砺市民病院		槻尾 正	○	
88	南砺市民病院		吉田 安子	○	
89	南砺市民病院		前川 達夫	○	○
90	南砺市民病院	※	谷村 州子	○	○
91	公立南砺中央病院		上島いづみ	○	○
92	公立南砺中央病院	※	神本智恵美	○	○
93	公立南砺中央病院		松本 亜弓	○	
94	公立南砺中央病院		横山 美咲	○	
95	公立南砺中央病院		杉村 稔	○	
96	公立南砺中央病院		奥野 芳隆	○	
97	公立南砺中央病院		川嶋由美子	○	○
98	公立南砺中央病院		南部 翔太	○	
99	訪問看護ステーション		若松 京子	○	○
100	訪問看護ステーション		山本 薫	○	
101	訪問看護ステーション		岩村 正美	○	○
102	南砺家庭・地域医療センター		大窪摩利子	○	○
103	南砺家庭・地域医療センター		中道真由美	○	
104	朝日新聞		八田 伸	○	
105	北日本新聞		吉田 博昌	○	
106	富山新聞		亀村 将央	○	
	合計			106	

第2回南砺の地域医療を守り育てる会発足会 参加者アンケート結果

■参加者総数106人

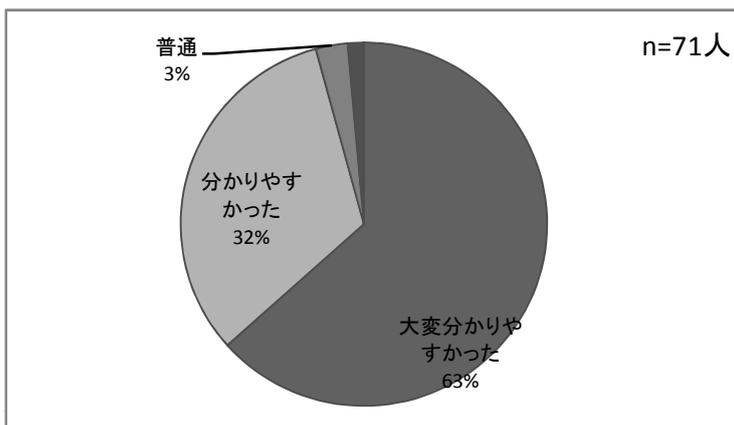
	職種
南砺市議会議員	11人
婦人会・サワヤカネット	31人
一般住民	12人
医療職	33人
福祉・保健職	19人



■設問 1

第1部「地域で考えたこと・実践したこと」の説明が分かりやすかったですか。

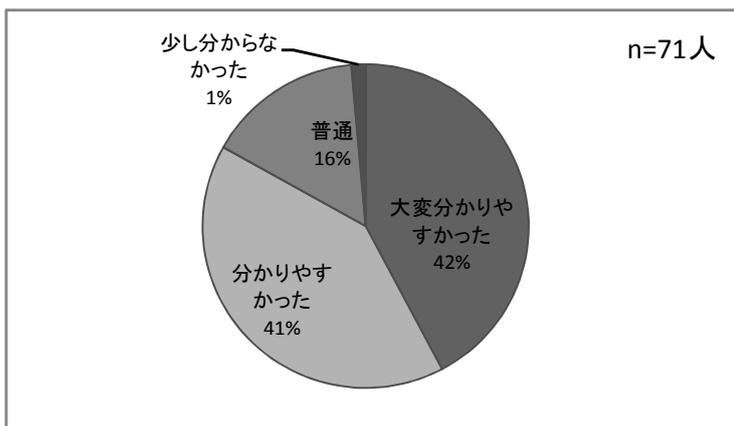
	第1部の理解度
大変分かりやすかった	45人
分かりやすかった	23人
普通	2人
少し分らなかった	1人
分からなかった	0人



■設問 2

第2部の説明が分かりやすかったですか。

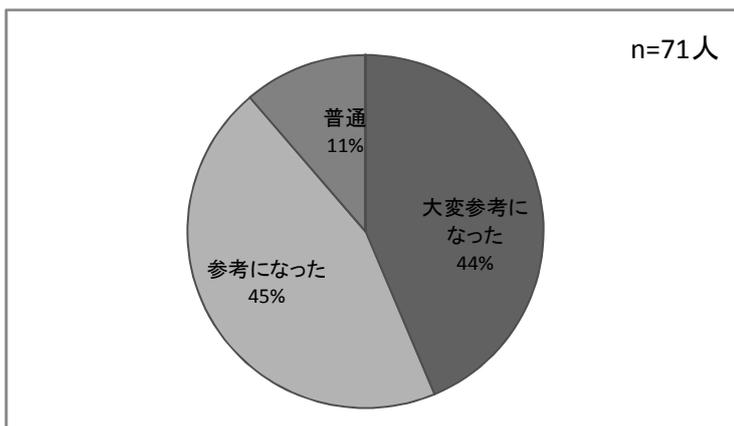
	第1部の参考度
大変分かりやすかった	30人
分かりやすかった	29人
普通	11人
少し分らなかった	1人
分からなかった	0人



■設問 3

守り育てる会の講義を聞いて今後の参考になりましたか。

	第2部の理解度
大変参考になった	31人
参考になった	32人
普通	8人
少ししか参考にならなかった	0人
参考にならなかった	0人



セミナーの感想や意見

取り上げて欲しいテーマ	感想
住民の意識をたかめ自分ごととしてとらえることや、予防に努めるために生活環境を整えていくことが大切だと理解できた。	子供たちに健康の大切さを教える、意識を育むことが必要
認知症の進行を進めない取り組みや活動を教えてほしい。介護施設に働く職員もどのように接していけばよいか参考にしたい	各行政センターに地域医療について話し合う場所があればよい
高校生や大学生の参加も増えてほしい。大変いい集まりだと思います。	次回も参加したい
地域で働いているドクターも出席されたら良かったと思う	自分たちでできることをできるときにしていかなければならないと思った。素晴らしい講演でした。
第三者評価について重きを置く人が多い。病院側の理解をなされる機会があればよい	一般住民ですが、医師不足に痛感している
高齢者のための精神、肉体的な予防について出前講座を期待する	かかわっている老人会などに伝えたいと思った
南砺市の医療の問題点や課題の洗い出し。コンビニ診療予防の啓発。訪問看護、介護の現状PR	婦人会ががんばっている活動を聞き、自分も頑張ろうと思った。
南砺市立病院の院長にもお話をいただいたらどうか	福祉や医療に興味があり参加した。福祉科での学習や将来就職したとき、今回の話を生かして生きたい
老人医療 人材育成	住民が同じ目線で考え行動することが大切だと思った。上下がなくそれぞれが役割をもって行動することが必要
保健、医療、福祉の具体的な連携活動	次世代の子供たちへ地域医療の情報を流してください
具体的な話を伺っていきたい	五箇山の活動が素晴らしい。地域の方も学生も大変良い機会になったと思う
自殺予防について、家庭での介護者に対する支援	これからもどんどん各団体に声かけしてこの会を聞いてほしい
正しい医療のかかり方、住民はどう努力するのか	佐藤先生の講演はとても感動した
認知症高齢者を支えるシステム作り	人ごとではないことに実感した。目からうろこだった
小児科に関すること	この会に参加できてよかった。この会の意思が広く伝わることを願う
福祉との連携	佐藤先生はさりげなくおっしゃったが、医師や看護師などが住民対話に入ることは大変であり、岩手に見に行きたい
医師不足解消についての南砺市の取り組みについて	今から看護師免許が取れるものならとりたいと思った。とても参考になる話が聞けてよかった
自分の最後はどう迎えたいと住民は思っているのか	素晴らしい会の立ち上げである。これからも頑張っていてほしい
病気にならないための保健や予防活動が大切	出席者の大半が女性だったので、青壮年や老人会にも働きかけたらどうか
高齢者の認知と認知症の区別がつかないので勉強したい	佐藤先生の病院スタッフ確保、経営改善等のうえ、住民との対話の苦労が目につく。臨床研修医の住民や医療スタッフとの意見交換会について詳しく知りたかった
老人会の方の意見を聞く場があればよい	住民の意見を医療機関に反映し、フィードバックする機会が作りだせるようになればよい
在宅介護	目からうろこの講演。素晴らしい病院づくりだ。今後の活動に取り入れさせていただきたい。
医療関係者の声が聞ける会	具体的に行動を起こすときの相談先は？
医療保健福祉の連携	高齢の両親がいるのでこれからも関わっていききたい。連合婦人会さんありがとう
保健や予防に加えて、子育てに関するものもあればよい	スライドの調子が気になった
コンビニ受診しないための対処法を家庭で行えるための研修	老人自身の活動や考えを聞く機会があればよい

セミナーの感想や意見

取り上げて欲しいテーマ	感想
在宅介護、看護、リハビリの取り組み	自分ができることから頑張りたい
リハビリについて	婦人会の取り組みに期待したい。顔見知りの方ができ、ひとつの目的にむけて明るい方向に向かうのではないかと期待したい
健康教室	佐藤先生の取り組みが新鮮でよかった。忘己利他の精神を実践されているのが素晴らしい。住民と対話しながらとりくまれており南砺市もこのようになればよい。
予防が大事と分かるがなかなか行動に移せない。広く共通認識ができる話し合いの場が設けられるしくみづくり	南砺市の医療や福祉が守り育てていけばよい
	各団体や各地域で徐々に広がっていきつつあるこの会が進歩していることが出席する都度感じる。
	地域医療を進めるのなら、在宅医療に携わっている家族や介護者に意見を言ってもらえる会であるべきと思う。介護者の方々が参加しやすい会であってほしい
	大変考えさせられ役に立つ会であった
	藤沢町に見学に行きたい
	地元の病院に勤めるより自分のスキルを高めるために都市部病院に勤めたがる人が多いようだが、ぜひこの病院ならつとめたい、と思う病院が南砺市にできればよい

写真。5月12日まで。北日本新聞社後援。

克彦さんは金沢市宮野町の「戸出工房」3代目。亜子さんとともに県内外で二人展を開いている。

克彦さんはコーヒークップや小鉢はし置きなどを出品。桜の花びらをかたどった小皿や、水玉模様マグカップもある。亜子さんの染め物はバッグやタペストリーのほか、さわやかな薄緑色のテーブルクロス、コースターがあり、来場者を和ませている。

アートギャラリー瑞庵は電話0763(82)6060。会期中は無休。

11月に若返り祭り 南砺市福光老人クラブ連合会(石崎栄一会長)は23日、福光中央会館で総会を開き、平成22年度の事業計画を決めた。

本年度は、5月23日に福光屋内グラウンドでシルバースポーツ大会、11月6、7日に福光中央会館で若返り祭りなどを行う。

石崎会長がいさつで、市と友好都市の中国・紹興市の2500年祭に合わせ、11月に訪中団の派遣を計画していることを紹介した。

◆新役員▽副会長 渡辺悦子

フェス (山辺美嗣) 会館で総会を計画を決めた。都市の愛知県交流ツアー、で国際交流を日本人を支援する観光客に対応するフェアや市民を

外との友好交流団体が加盟しマルボロ交流交流20周年記

四維 体操 育指導者を対23日、市民体が音楽に合わせ、市民の健康と、市体育協開いた。智さんと川端めた。10月に



ま20をきを内☆を合合わせた公園スキ☆古城公園を紹介。参加者ひねって使

の学生らと交流した様子を紹介。地域の医療を住民自らが守っていくためにも「地域医療の大切さを知ってもらう動きかけが大切」などと発表した。講演では、岩手県国民健康保険藤沢町民病院の佐藤元美院長が「地域で考えたこと・実践したこと」と題し話した。

地域医療の在り方探る 南砺

「南砺の地域医療を守り育てる会」は24日、南砺市福光庁舎別館で開かれ、住民の活動報告などを通じ、地域医療がどうあるべきかを考えた。

同会は、市医療局の「地域医療再生マイスター講座」の終了後に受講者が立ち上げ、医師不足などの課題について解決法を模索している。

受講者の連合婦人会員や医療従事者ら約100人が集まった。会長の山城清二(富山大学附属病院総合診療部教授)の進行で、三つのグループが活動報告した。

五箇山の婦人会員らでつくるグループは、富山大学医学部

門信徒1300人参拝

瑞泉寺でお待ち受け法要 真宗大谷派高岡教区の宗祖親鸞聖人750回御遠忌(お待ち受け法要)が24日、南砺市井波の井波別院瑞泉寺(藤田誓壽輪番)であり、約1300人の門信徒が参拝した。

来年3、5月に東本願寺で行われる御遠忌法要に向け、門信徒の機運を高めようと開催。同教区御遠忌委員会の廣



かみそり)で大谷門首が約700人に法名を贈った。25日はお待ち受け法要子ども大会が開かれ、園児や児童

来月に手話

南砺市身体障害者日、同市院林(福老人福祉センター)き、本年度は5月会、8月にスポーツ、くことを決めた。大居政信会長が中山副市長、且見

東海となみ野会



菅沼合掌造り集落

さん(28)「いずれも三重県津市には「雪が残り、桜が咲く風景に癒やされた」と話した。ぬく森の郷では、田中南砺市長と会食した。

西



見事な出来栄を披露した出町子供歌舞伎曳山のけいこ上げ

は同日の前11時、2日、演は29日、拍手も鑑訪問み野物語倉時徳川し物れる会場

出町子供歌舞伎「曳山」のけいこ上げが24日、同市中央町の市出町子供歌舞伎曳山会館前で行われ、当番町・中町の小学生たちが「鎌倉三代記 三浦の29、30日に出町別れの段」を見事な出来栄を披露した。5月2日には

以上続く伝統行事 町東の3町が毎年

第2回 南砺の地域医療を守り育てる会

日 時 : 平成22年4月24日(土) 13時30分～16時00分
場 所 : 南砺市役所 福光庁舎別館 3階ホール

次 第

1. 開会の挨拶

2. 基調講演 『地域で考えたこと・実践したこと』

講師 岩手県国民健康保険藤沢町民病院長
岩手県藤沢町福祉医療センター長 佐藤 元美 先生

— 休 憩 —

3. 活動報告・ワークショップ

講師 : 富山大学附属病院 総合診療部
教授 山城 清二 先生

- ① 五箇山グループ
- ② 認知症への取り組み
- ③ 南砺市連合婦人会
- ④ その他

4. 閉会の挨拶

Memo

第2回 南砺の地域医療を守り育てる会

日時 平成22年 4月 24日（土） 13:30～16:00

会場 南砺市役所 福光庁舎 別館 3階ホール



第1部 講演 13:30～15:00

「地域で考えたこと・実践したこと」

国民健康保険藤沢町民病院 院長 佐藤 元美 先生



第2部 活動報告 15:00～16:00

- ・連合婦人会、五箇山グループ、認知症への取り組み等
- ・司会：富山大学附属病院総合診療部 山城 清二 先生



- 参加費は無料です
- 収容人数の関係上、立ち見となる場合がありますので、予めご了承ください。



南砺市医療局

南砺家庭・地域医療センター 3階
〒939-1518 富山県南砺市松原577番地
TEL:0763(23)1003 FAX:0763(22)3557

地域で考えたこと・ 実践したこと

岩手県藤沢町民病院
佐藤元美

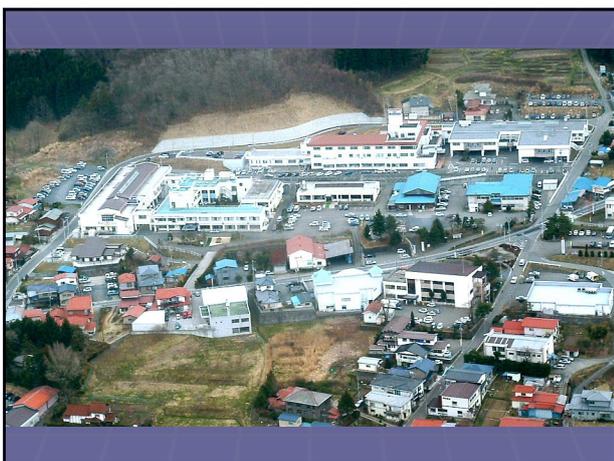
■ 13:30-15:00

過去/未来 医療/地域



初めての方のための自己紹介

- 1955年 岩手県千厩町の無医地区に生まれる
- 1973年 自治医大入学
- 1979年 岩手県立病院勤務(二つの病院で内科を担当)
- 1992年 佐藤守町長に誘われて岩手県藤沢町に移る(生活医療, 出前医療)
- 1993年 藤沢町民病院創設し病院長に
- 2004年 病院事業管理者(特別職)



真昼の空にも流れ星は降り注ぐ？



藤沢町

- 岩手県南端の北上山系の町
 - 東西16km, 南北14.7km, 面積122.82km², 周囲71.7km
- 人口 9694人
- 過疎と高齢化の進む農業主体の町



病院理念「忘己利他」

- 自治医大初代学長 中尾喜久先生から書いていただいた
- 病院職員の名札に
- 医療の本質
- 最澄が朝廷に提出した山家学生式に由来する



悪事向己 好事与他 忘己利他 慈悲之極
 悪事(あくじ)を己(おのれ)に向(むか)え、好事(こうじ)を他に与え、己(おのれ)を忘れて他を利(り)するは、慈悲(じひ)の極(きわ)みなり

藤沢町民病院事業

- 平成16年度から地方公営企業法全部適応
- 平成18年度、自治体優良病院総務大臣表彰
- 保健医療福祉複合体
 - 病院
 - 訪問看護ステーション
 - 在宅介護支援センター
 - 特別養護老人ホーム
 - 老人保健施設
 - デイサービスセンター
 - グループホーム
- 藤沢町福祉医療センター
 - 町民病院事業
 - 保健センター



藤沢町民病院の歴史

- 昭和43年県立藤沢病院が廃院
- 昭和57年特別養護老人ホームと国保診療所で藤沢町福祉医療センター設立
- 平成5年国保藤沢町民病院創設
- 平成8年老健と在宅介護支援センター
- 平成11年訪問看護ステーション
- 平成15年痴呆性老人グループホーム

藤沢町民病院 特徴

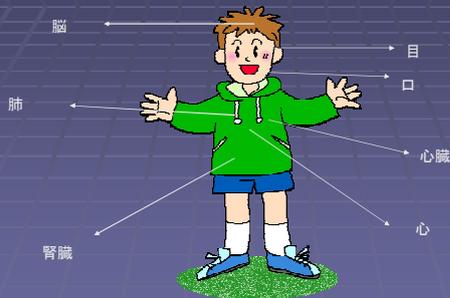
- 町民医療にしめる大きな役割
人口1万で唯一の医療機関
町民死亡の7割を担当
土曜日・平日午後も診療
- 実習・見学の受け入れ(ニカラグア, 中米, 自治医大, 岩手医大など)
- 電子カルテ実装(平成14年)
- 日本医療機能評価機構の認定(平成12年)
- 総合診療方式
- 医療のTQM参加, 改善大会開催



医療の奥行きと広がり

- 自動販売機のような医療から脱却
 - 症状に対して薬
 - 病名に対してテープレコーダーのようなアドバイス
- スナップショットからの脱却
 - 患者の歴史を知り、文脈を整える

総合医療 空間的広がり



包括医療



医療と医療の前後を考える＝包括医療
患者を歴史的な存在として、過去から未来にかけて考える
自分たちの仕事も地域と相互に影響しあう成長の物語と捉える

良い医療の定義、あるいは悪い医療 と言われないための外的条件

- 選挙、理事会などの政治プロセス
 - 設置者の満足
 - クレーム処理の在り方
- 市場での競争を中心とする経済プロセス
 - 患者を集める
 - スタッフを集める
 - 説明可能な決算を得る

会計学＝複式簿記

- 勘定から会計, countからaccountへ
 - 単年度のどんぶり勘定を止めよう
- 感情から説明へ
 - アカンタビリティの発揮
 - 数字の計算ではなく、結果の説明をしよう
 - 利益を上げることが目的ではないので説明が重要
- 今日の仕事だけでなく、明日もっと良い仕事をするための投資
 - 資本的収支を中期的視野で計画的に考えよう
- 今ある設備を維持向上するための減価償却
 - 建物、大型設備は建て替え、更新の準備をしよう
- 会計は戦う道具だ

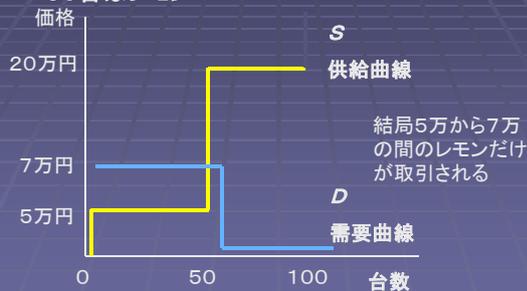
医療過疎地での第三者評価の意義

- 医療の質劣化は医療過疎の根本的問題である
- 質向上以外には医療過疎地の医療は解決できそうにない
- 経済学のモデルで考える

医療とレモン市場

- レモン くわせもの、見かけは立派だがポンコツである中古自動車
- 中古市場での情報の非対称性
売り手はすべてを知り、買い手は品質が判らない
- 「逆選択」adverse selection
レモンの存在が質の良い商品の取引を阻害する
- グレシャムの法則
悪貨は良貨を駆逐する

レモン市場の需給
100台の中古車が市場にあり、50台は調子良い
50台はレモン



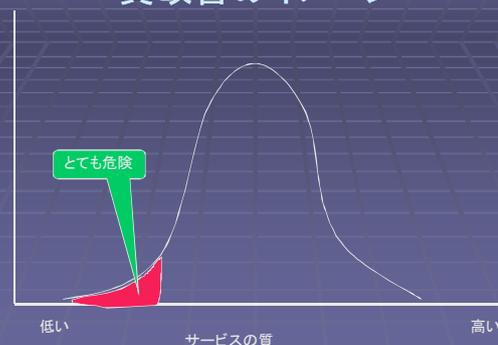
医療とレモン市場

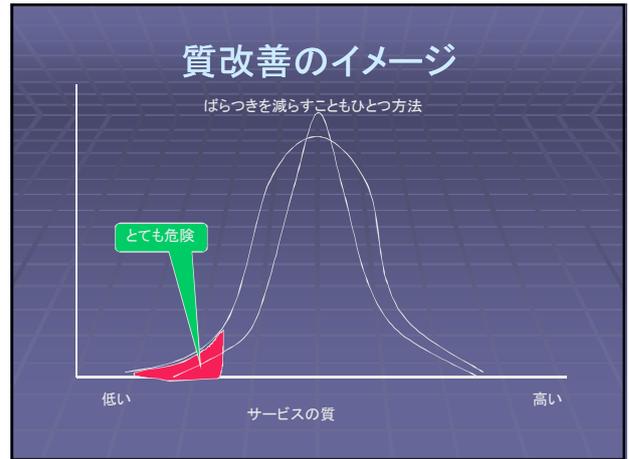
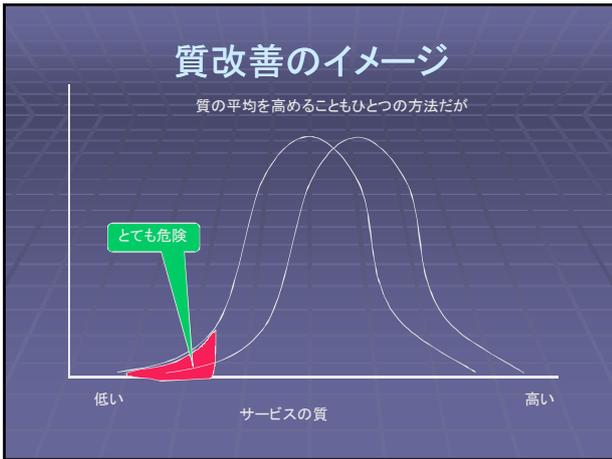
- 患者と医療機関の間に情報の著しい非対称性がある
- 患者は医師がレモン(やぶ)であるかもしれないと考えている
- 医師は十分評価されていないと感じている
- 患者の大病院指向, 医師の専門医志向をもたらしている
- 医療過疎地でより深刻
- 公正な第三者評価が必要不可欠

TQMにおける「質」

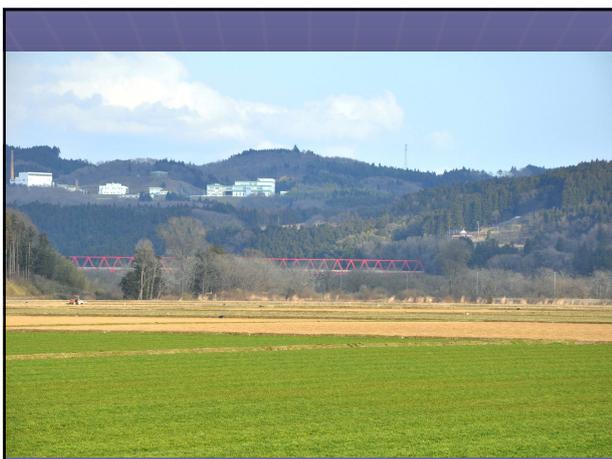
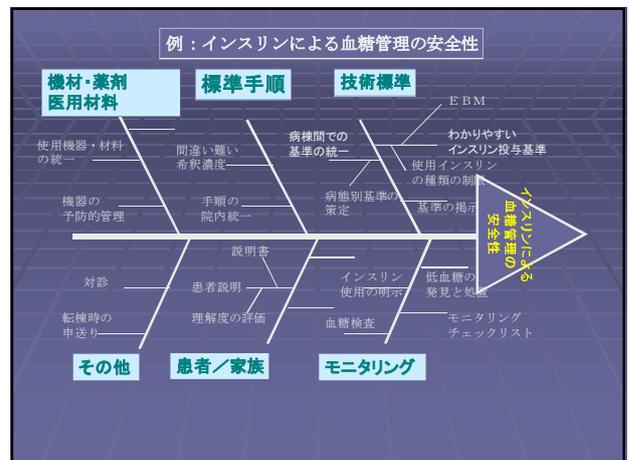
- プロダクト・アウト(生産者・提供側が決める質)
→ マーケット・イン(求める側が決める質)
- 製品規格に対する適合度(fitness to SPEC)
→ 顧客ニーズの充足(fitness to use)

質改善のイメージ





- ### 質改善への取り組み
- 平成12年 日本医療機能評価の認定
 - 平成13年 NDP(医療のTQM実証研究)
 - 平成13年 病院組織改革(TQM推進委員会)
 - 平成15年 初めての改善発表会
 - 平成16年 第1回QCサークル研究発表会



- ### 健康テーマの歴史の変遷
- STEP1 保健+医療
 - 注目点 社会経済的因子、公衆衛生
 - 主なテーマ 伝染病、乳幼児死亡
 - 予防対象 とても早すぎる死
 - STEP2 検診+医療
 - 注目点 検査データ
 - 主なテーマ 高血圧、胃がん
 - 予防対象 早すぎる死
 - STEP3 福祉+医療
 - 注目点 ADL
 - 主なテーマ 寝たきり
 - 予防対象 引き続く不幸
 - STEP4 保健+医療
 - 注目点 やる気とQOL
 - 主なテーマ 中高年からの健康増進
 - 予防対象 早すぎる寝たきり

STEP1 保健+医療

- 注目点 社会経済的因子、公衆衛生
- 主なテーマ 伝染病、乳幼児死亡
- 予防対象 とても早すぎる死



STEP2 検診+医療

- 注目点 検査データ
- 主なテーマ 高血圧、胃がん
- 予防対象 早すぎる死



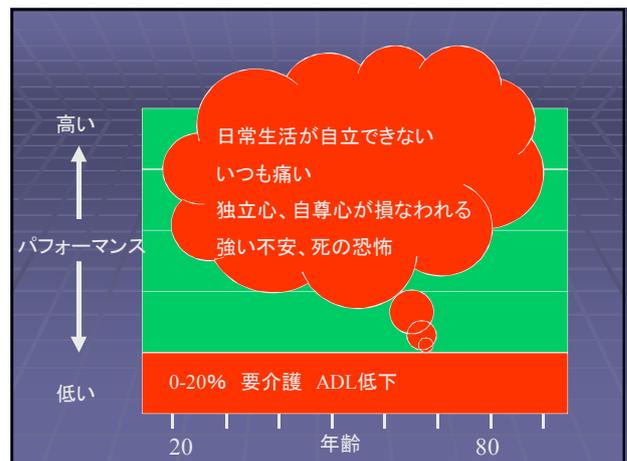
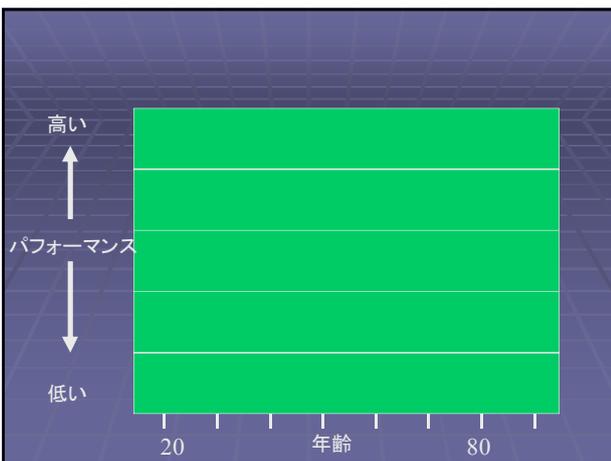
福祉+医療

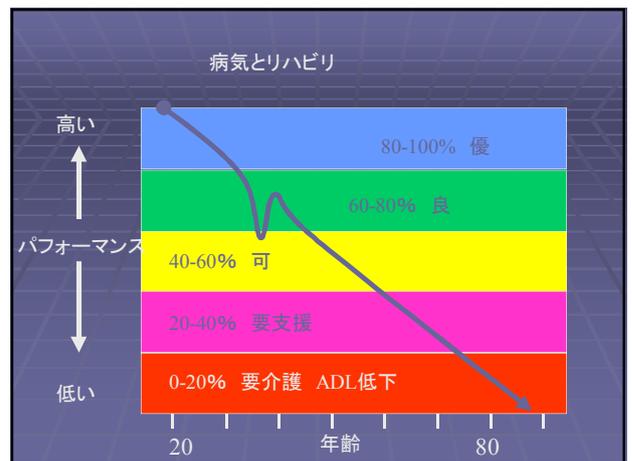
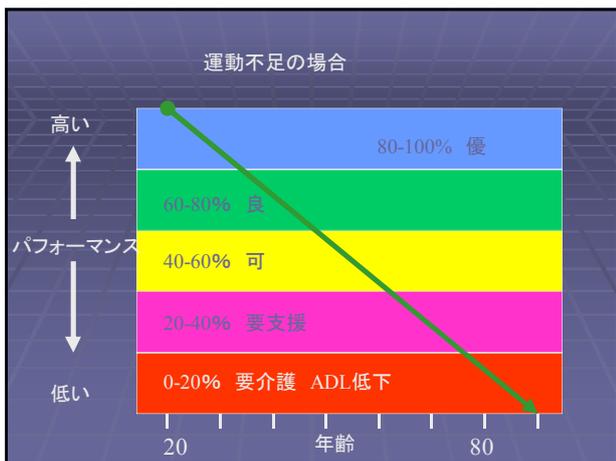
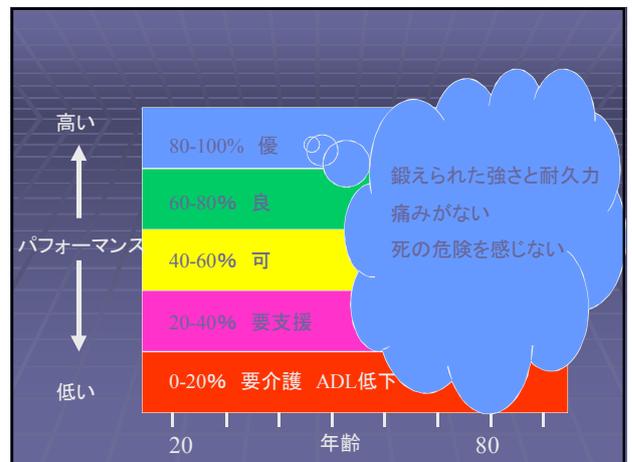
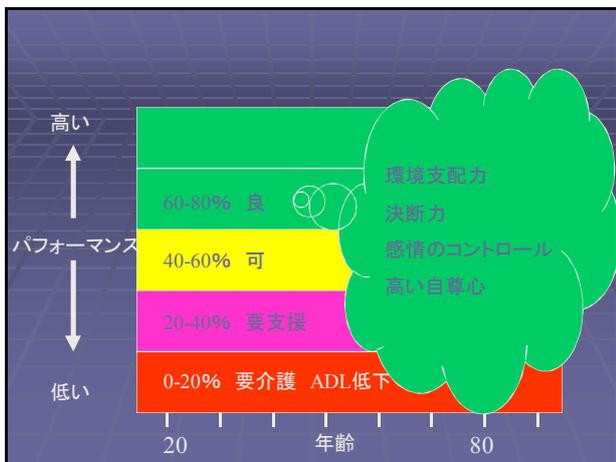
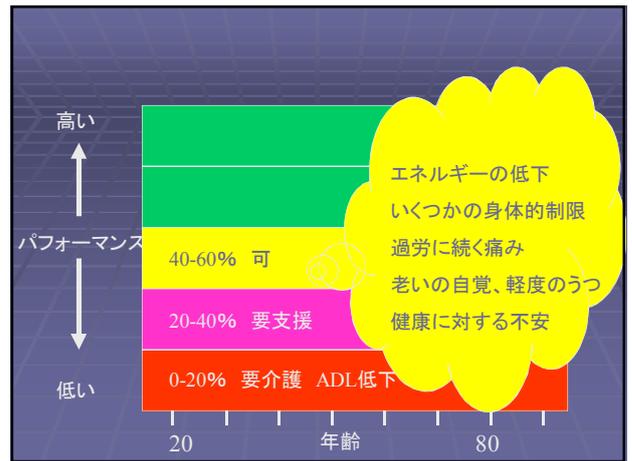
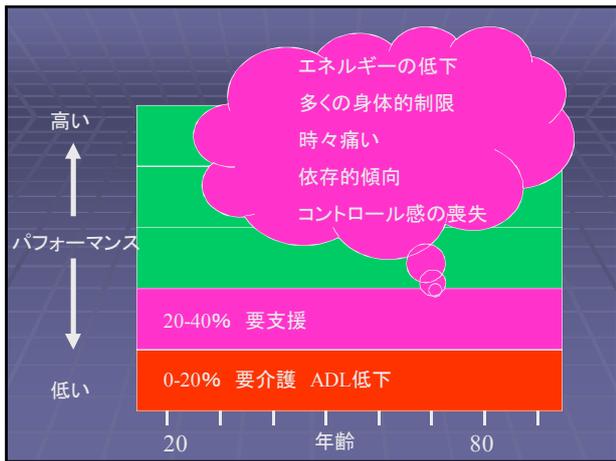
- 注目点 ADL
- 主なテーマ 寝たきり
- 予防対象 引き続く不幸

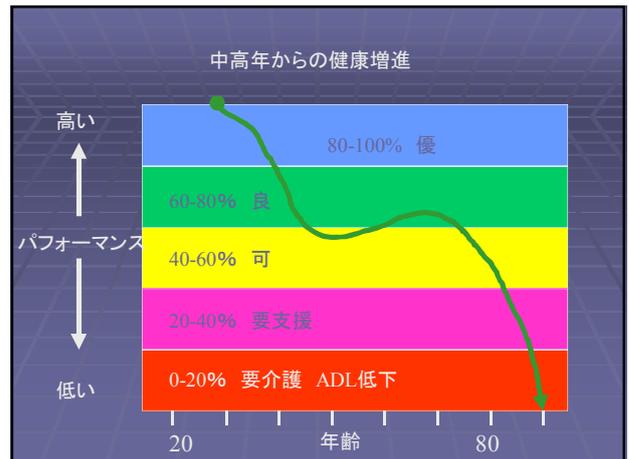
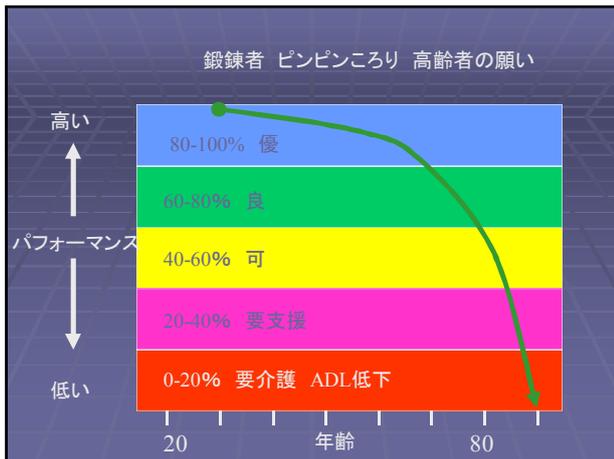


保健+医療

- 注目点 やる気とQOL
- 主なテーマ 中高年からの健康増進
- 予防対象 早すぎる寝たきり







急性期医療型モデル

- 始まりと終わりが明瞭
- 基本的に医療者に責任
- 医療者の知識, 技術に依存



公衆衛生的モデル

- 禁止や強制が中心
- 制度に依存する
- 結核, エイズなど感染症に有効
- 喫煙, 飲酒, 運動では?



自己管理型モデル

- 患者-クライアントが中心
- 自分の人生を生きる
- 医療者はサポート, コーチに徹する



新しい糖尿病外来の必要性

- 糖尿病教室の行き詰まり
- 知識を与えたり, アドバイスをしたりではうまくいかない患者群 (Yes, but syndrome)
- 医療者の短時間の外来での不毛感
- 将来の安定した収入源の確保
- 生活習慣病に適した診療スタイル

増進外来準備としての糖尿病研究会

- 平成15年4月から10月
- 糖尿病の基礎知識共有
- 心理的サポートの基礎と実習
 - 保健師から学ぶ
- ワークショップ-理想の糖尿病診療
 - もし自分が糖尿病だったら
 - 夫が
 - 親が
 - 子どもが



健康増進外来

- 平成15年10月から
- 時間帯: 一般診療から分離して火曜日夕方から夜
- 対象患者: インスリン治療を必要としない糖尿病患者
- 収入源: 生活習慣病管理指導料
- チーム医療: 看護師、医師、管理栄養士
- 看護師は担当制
- 看護師1時間、医師15分を確保

症例

- 登録患者数 23名
 - 男性15, 女性13名. 年齢43歳から70歳, 平均57.2
- 終了患者 6名
 - 転勤, 受診時間, 協議, 交通手段
- 担当看護師
 - 菊地7, 千葉3, 島山3, 菅原4, 阿部6
- 最終A1c
 - 5.6から8.6, 平均6.7, 標準誤差0.13, 中央値6.7, 頻値7.2, 標準偏差0.6, 分散0.41, 尖度2.2, 歪度0.96

健康増進外来の導入部

- 健康増進外来希望患者へ看護師が説明し, 同意を文書で得る
- 初回受診日と担当看護師を決める
- プレ調査票: 2日間の食事記録, 歩数記録をつけていただく

健康増進外来の初回

- 2時間程度
- 栄養士による1時間程度の栄養調査
- 看護師による生活習慣聞き取り
- 主観的健康観SF-36
- 糖尿病療養ストレス尺度PAID
- 診察, 採血

健康増進外来の2回目

- 初回から2週間後
- 初回面談の結果とチームカンファランスの結果を参考に, 行動目標を立てる援助を行う
- セルフチェック表の記入方法を説明し, 渡す
- 次回予約(4週間後)

健康増進外来の3回目

- 受付で会計をすませる
- 担当看護師お迎え
- 担当看護師とお茶
- A1c, 血糖の採血, 採尿
- 担当看護師とセルフチェック表を参考に1ヶ月をふり返る
- 行動目標の評価
- 検査結果を伝える
- 患者, 看護師, 医師で面談
- 処方と次回予約

健康増進外来の基本姿勢 のようなもの

- とまかくよく聴く
 - 患者の文脈に沿って
 - 時々整理して
 - 文脈が変わるのに敏感になる
 - 無知の姿勢で
- せかささない, 指導しない
 - 後ろから患者のペースにあわせてリードする
 - 指導しようとしなくて患者が見えてくる
- 喜ばない, 怒らない
 - 感情を患者に押しつけない(コントロールが良くなって良かったね!ではなく、結果を聞いてどんなお気持ちですか?)
 - 患者の感情に敏感になる

外来診察室

- 患者もハイバックチェア
- 一緒に結果がみられる電子カルテ
- 次回の予約を相談するためのカレンダー



セルフチェック表-例1

月日 (休みの日はO印)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
歩	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
食事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
睡眠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
血糖	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
A1c	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
血圧	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ストレス (低い×-ある○)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活習慣 改善全般 目標達成など	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

セルフチェック表-例2

月日 (休みの日はO印)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
歩	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
食事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
睡眠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
血糖	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
A1c	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
血圧	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ストレス (低い×-ある○)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活習慣 改善全般 目標達成など	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ご案内

健康増進外来

平成19年度も
受付付け募集中。
医師にご相談ください

生活習慣病・・・予防は、聞いたことがありますか？
生活習慣病とは、生活習慣からの生活習慣病の発症を予防することをいいます。
代表的な病気としては、糖尿病、高血圧症、高脂血症、肥満などがあります。
藤沢市民病院では、糖尿病をお持ちの方を対象に今までは違う新しい形の外来を開院し取り組んでおります。この外来を通じて自らの生活習慣を振り返り、食事や運動などの習慣を工夫することで目標の健康を維持・増進することを目標に頑張ってみませんか。

日時 毎週 火曜日 午後4時～ (所要時間1時間半予定)
場所 藤沢市民病院 (完全予約制なので待ち時間はありません。)
内容 第1回目 食生活についての聞き取り調査・面談・診察(処方)・検査。
第2回目以降 面談、診察(処方)、検査、必要時専門医による指導
患者様自身が、これまでの生活習慣を見直し、健康的な生活習慣を取り戻すことが出来るように、食生活、運動、脂肪、塩分を分かち合えるよう努めてまいります。

地域に愛される外来として、楽しくいろいろお話ができる空間を作りたいと思います。
糖尿病をお持ちの方で、生活習慣の改善に意欲的の方、または興味のある方のお話をお待ちしております。

お問い合わせ先
藤沢市民病院健康増進外来担当看護師・看護師、管理栄養士
詳しくは、医療部長がご説明いたします。

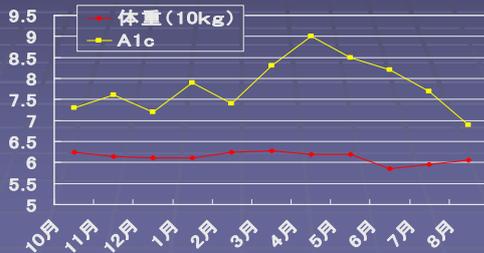
症例1番

- 家族構成
 - 夫、次女夫婦と孫二人
- 現病歴
 - 平成4年 尿糖を指摘され受診し、糖尿病と診断
 - 平成5年3月、1800kcalで食事療法開始、A1c7.7%
 - 平成7年2月、A1c 9.1%と悪化。指示カロリー1400kcalに変更、グリミクロン開始
 - 平成10年、A1c 11.2%と悪化。ダオニールに変更
 - 平成15年4月、A1c10.0%と悪化、メルビン開始
 - 平成15年10月、インスリン療法導入も勧められるが、注射以外の治療を希望して健康増進外来に移行

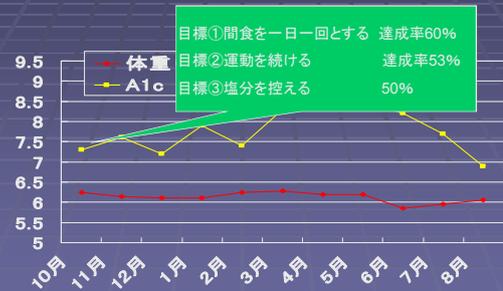
症例1番

- 平成15年10月調査日
 - 身長160.3cm、体重62.4kg、随時血糖251mg、A1c7.3%
- 調査日の服薬内容
 - ダオニール2.5mg(2-0-1)
 - メルビン250mg(1-0-1)
 - グルコバイ100mg(1-1-1)
 - ディオバン80mg 1錠
- 自分で立てた目標
 - 間食は1日1回までとする
 - 運動を今まで通り続ける
 - 塩分を控えめにする

症例1番



症例1番



症例1番



症例1番



症例1番

■ 担当ナースの感想

- 次々と行動目標が増えて、毎回守れず、次はがんばりますと言われて、A1cが上昇してきたときには、自分の対応が悪いのかと落ち込んだ。
- 患者が食事記録をつけていたときには比較的コントロールが良かったことを思い出し、3食記録をつけるようになりA1cがとんとん低下した
- 患者が目標を立て、それをサポートすることで成果があがった



疑問

- 「病院-医療」と「自分-健康」とが対立していないか？
- 病院で患者がもっと健康になることは出来るか？
- 病態生理学と「やまい」の語りは対立していないか？
- 生活習慣病の「生活」とは指導したり管理できるものなのか？
- 病気になるのを待って、指導するのは「正しい」態度か？
- 熱心に指導するほど患者を支配しているよういやな感じがしないか？

基礎となる考え方

- 短期間スタンフォード大学医学部疾病予防研究センターのセミナーに三浦しげ子保健師と参加して基礎的な勉強が出来た

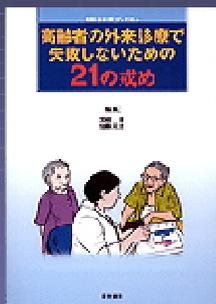


基礎となる考え方

- ロルニックの本を通読し、翻訳を手伝った
- 引用文献に目を通した



健康に関する意見を本に書いた



社会認知論

ALBERT BANDURA

個人-----行動-----結果

自己効力感 結果期待

自己効力感の源泉

完遂体験

代理体験(観察学習)

言葉による励ましと説得

程好い緊張

プロチャスカのステージングモデル

無関心期	関心がない
関心期	6ヶ月以内に变えようと考えている
準備期	1ヶ月以内に变えようと考えている
行動期	行動を変えてから6ヶ月以内
維持期	行動を変えてから6ヶ月以上

患者と教育者では見方がしばしば違う

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 教育者の見方 <ul style="list-style-type: none"> ■ 解剖学的で生理学的 ■ 健康を維持したり向上させる行動 ■ 病気に関する事実 ■ 健康行動を遂行する技術 ■ ノンコンプライアンスのフラストレーション ■ 誤った実践への不安 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 患者の見方 <ul style="list-style-type: none"> ■ どうして気分が悪いの ■ 問題を解決する行動 ■ 病気に関する信念 ■ “正常な生活”を維持する技術 ■ 病気と共に生きるフラストレーション ■ 将来への不安 |
|--|---|

急性疾患と生活習慣病の大きな違い

	たとえば虫垂炎	糖尿病のための行動変容
行動開始	症状／痛み	無症状／無痛
行動のオプション	確立されている	何をすればよいか？
責任	一次的には医療者	個人の積極的参加
行動の終わり	不快な刺激の消失	リスクの回避？

CAREそしてSUGARとの出会い

- 2000年 C・ホワイト／D・デンボロウ編集「ナラティブ・セラピーの実践」で知った
- 「詩は慰め、物語は救いとなるか？」といつも考えていたので購読した
- フーコーおよび社会構成主義との初めての接近

健康病院構想

- 病院で3つの健康を高めよう
 - 患者
 - スタッフ
 - 地域-Community
- 新しい手法を使おう
 - 実際に経験する(運動スタッフ)
 - 心理的バリアを取り除く(臨床心理・カウンセリング)
 - 患者主体・患者中心の医療

健康増進外来

- 展開する場所: 病院
- 時間帯: 一般診療から分離して夕方から夜
- 対象患者: 70歳未満の生活習慣病患者で非薬物療法を主体とする者
- 収入源: 生活習慣病管理指導料
- チーム医療: 個別健康教育を経験した保健師を中心に、看護師、管理栄養士、理学療法士、検査技師、薬剤師、医師
- 看護師は担当制

健康増進外来の基本姿勢 のようなもの

- ともかくよく聴く
 - 患者の文脈に沿って
 - 時々整理して
 - 文脈が変わるのに敏感になる
- せかさない、指導しない
 - 後ろから患者のペースにあわせてリードする
 - 指導しようとしないと患者が見えてくる
- 喜ばない、怒らない
 - 感情を患者に押しつけない
 - 患者の感情に敏感になる

健康増進外来から得たもの

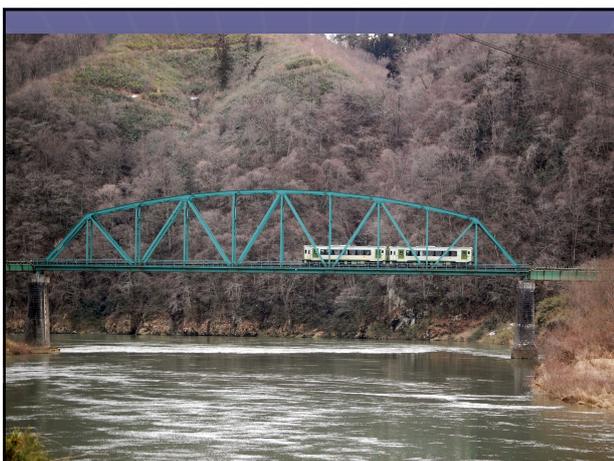
- 主客転倒
 - 医療の主役は患者である
 - 生活と生活習慣を成り立たせている背景は個別
的で患者こそがエキスパートである
 - 医師にほめられるための治療から、自分の人生
を豊かにするための治療へ
 - 患者は待ち時間なしで医師が待っている
 - 目標は患者が決めて、スタッフは応援
 - 自分で決めた計画の失敗は、成功のもと

健康増進外来から得たもの

- 外来看護の誕生
 - 外来には診察介助はあっても看護がなかった
 - 一人の患者と継続して関わることで外来看護が
誕生した
 - 看護師の個性が生きる
 - ひとり一人の看護師に新しい成長の物語

健康増進外来から得たもの

- 医療面接の訓練が出来る
 - 傾聴
 - 無知のアプローチ
 - 共感
- 外来診療教育に活用できる
 - レジデントや研修医、医学生
- 患者がスタッフを信頼し、本音を話し、相談し
てくれることこそ、スタッフの健康につながる



肺炎予防、摂食嚥下の取り組み

- インフルエンザワクチン接種 2800回
 - 平成4年から開始し、多方面から批判
 - 予防接種についてはCDCに準拠
- 肺炎球菌ワクチン
- 摂食嚥下障害の診断／治療／ケア

藤沢町民病院

- スタッフ
 - 管理栄養士
 - PT、ST
 - リハビリ研修終了医師
- ハード
 - 高磁場MRI
 - 40列MDCT
 - CアームによるVF
 - 細径内視鏡



藤沢町民病院

- ソフト
 - VFマニュアルと多くの経験
 - 食事VFの開発と応用
 - 30回以上の摂食・嚥下研究会の公開開催
 - NSTへ発展・移行
 - いわて摂食・嚥下リハビリテーション研究会への発展
 - OE法の経験
 - 球麻痺症例でバルーン拡張法の経験

藤沢町摂食・嚥下研究会

- 背景
 - 誤嚥性肺炎の増加
 - 摂食・嚥下障害のため退院できない患者の増加
 - PEGが予後を改善していないことが調査で判明
 - 2001年よりVFを行っていた
 - 延髄外側症候群(ワーレンベルク症候群)を経験

藤沢町摂食・嚥下研究会

- 地域の力を借りよう
 - 歯科医師、歯科衛生士の参加
 - 県内の施設、病院から多職種の参加
- 地域に還元しよう
 - 各種マニュアルの作成と配布
 - 教育プログラムの開催
- 日常食VFの開発

藤沢町摂食・嚥下研究会

- 2002年6月発足
 - 会長に自治医大地域医療学教室から派遣の川上和徳
 - メンバーは医師、管理栄養士、放射線技師、看護師など多職種
- 目標 チームリハビリ、チーム医療の実践
- 月1回開催
 - 症例検討、VF検討、生理学、解剖学講義、研修会伝達講習、テキスト輪読会



摂食嚥下研究会からNSTへ

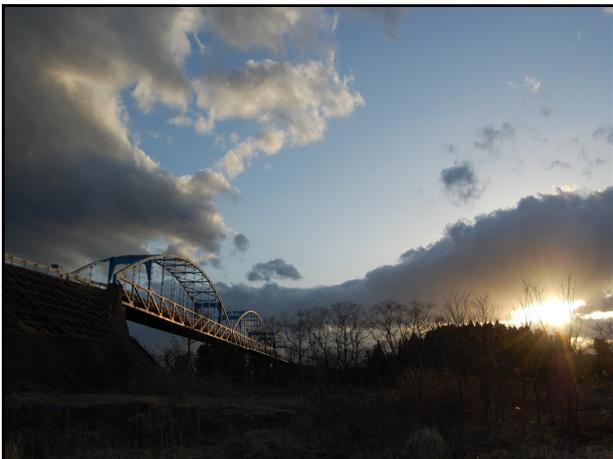
- 平成17年4月よりNSTに移行
- 組織改革を行い、NSTの一部として摂食嚥下に取り組むことになった

いわて摂食・嚥下リハビリテーション研究会

- 平成16年5月発足
- 岩手県内の病院、診療所、施設、在宅での摂食嚥下の取り組みを向上させることが目的
- 年2回の研修会を開催する
- 会員施設80程度
- 研修会参加者300名
- 他県あるいは非会員施設からでも参加できる(会場費3000円の有料)

研修会参加者

- 第1回(矢巾会場)平成16年夏
 - 343名
- 第2回(藤沢会場)平成17年冬
 - 238名
- 第3回(矢巾会場)平成17年秋
 - 286名



病院を飛び出し地域で対話

- 診察室は密室で医療者(強者)と患者(弱者)という構図に終始してしまう
- 各種委員会は形骸的になりやすい
- 誰でも自分の意見を述べる機会が必要
- 患者(受益者)とではなく住民(つくり守る人)と語り合う
- 主役は医療者ではなく、住民
- テーマは病気ではなく医療や介護の在り方

住民との対話が必要

- 病院が出来て1年後から苦情、意見が増大
 - 慢性疾患では無診察投薬を認めて欲しい
 - 待ち時間をなくして欲しい
- 私から見た患者・住民のモラル問題
 - 保険診療のルールが知らされていない
 - 診療の基本ルールが守られない
 - 未収が多い
 - 通院中断が多い
 - 役場が運営している病院だから大きな声で要求すればどんな無理も通る

ナイトスクールの方法

- 時期 農業が忙しくない時期に、年一回
- 場所 町内10カ所から3カ所の集会所で
- 時間 夜7時から9時まで
- 参加 病院事業の各職種と住民
- 見学 研究者、医師、マスコミなど

ナイトスクール

- 平成6年度から開始
- 参加者は30名から100名
- 無診察投薬をめぐって私から説明
 - 医療法や健康保険のルールに反している
 - 危険な医療である
 - 詐欺でもある
 - 病院の経営に深刻な打撃になる(診察して、説明して、検査をして、指導して初めて収入になる)
- 待ち時間
 - 午後診療、土曜日の診療、訪問医療、予約制導入
- 病院について
 - 住民にとってこそかけがいのないもの
 - 大切につくり育てて欲しい
 - 住民とスタッフの定期的な意見交換が必要

住民参加・住民は医療の運営者でもある



ナイトスクール

- 町内10カ所の地区健康センターを舞台に
- 福祉医療センターの各職種が向き
- 住民と直接対話を行う
- 患者と住民は同じではない
- 生活習慣を地域で変えよう



ナイトスクール

- まずは寸劇でアイスブレイキング
- 昼間からの酒を上手に断る方法を身につけよう



ナイトスクールの成果

- 無診察投薬の要求が激減
- 待ち時間のクレーム減少
- 住民からの寄付増大
- 患者のモラルアップ、未収金の減少
- 住民の予防意欲の向上



意見交換会

- 地域保健・医療の研修が進まない
 - 自治医大と県立磐井病院から1ヶ月間の臨床研修を年に10人以上受けている
 - 外来実習をしたいが、患者が研修医の診察を拒否
- 研修医を地域全体で育て将来の医師確保につなげたい
 - 研修報告会を住民にも公開して、意見交換の場をつくろう

意見交換会 方法

- 研修医の研修終了時の研修報告会
- 午後6時から研修報告会と病院事業の活動報告
- 参加者 住民と病院スタッフ
- 報告の後、お茶で意見交換、フィードバック

意見交換会風景



意見交換会風景



意見交換会風景



意見交換会から得たもの

- 研修医の外来実習が円滑にできる
- 研修医を励ましてくれる患者が増えた
- また、来たいという研修医が増えた



介護者の会

- 平成11年設立
- 藤沢町で訪問診療を受けている家族の健康調査
 - 自治医大地域医療学教室 鶴岡優子
 - 介護者は社会的に孤立している
 - 介護者は必要な情報が不足している
 - 介護者は心理的に疲弊している
- 介護者の話を聴く

介護者の会



介護者の会

- 認知症のためのグループホーム設立の中心になった
- 研修報告会や藤沢町認知症ケア研究会に積極的に参加して意見をのべている
- 介護者同士の交流, 小旅行



町民病院を支える会

- 合併後の町民病院存続に不安を感じる町民が病院を支えたいと結集
- 医師の家族へのサポート
- 藤沢町の案内
- 各種病院の行事への参加と呼びかけ
- お祭りで町民病院スタッフのためのテント

町民病院を支える会



藤沢町民病院で学んだ医師

- 夕張希望の杜理事長 村上智彦先生
- 奥州市まごころ病院長 及川雄悦先生
- 東海村立病院事業管理者 海老根廣行先生

提案

- 今の岩手に必要な医師を岩手で育てる仕組みを作ろう
- 地域で総合的に診察する医師は、専門科を順番に回るだけでは育成出来ない。
- 地域に必要な医師は地域で育てよう
- 三重県の試み
 - 組合立紀南病院に県地域医療センターを設立
 - 三重大学と県、市町の連携でへき地などの医師不足を解消



終わりに

- 医療の問題でもっとも深刻なのは、供給される医療と望まれる医療との乖離である
- 地域での生活を支える医療が必要で、かつ、不足している
- 医療者と住民が地域で医療を語り合うことで住民にあった医療を作ることができる
- 必要な医療を提供できる医師を育てるため住民こそが医学教育に参加すべき

第6回 南砺市在宅医療推進セミナー in 利賀

南砺市医療局より
 第6回 発行：南砺市医療局 5/23(100) 発行日：平成21年8月

小児の真実の判断について -第4回南砺市在宅医療推進セミナー-

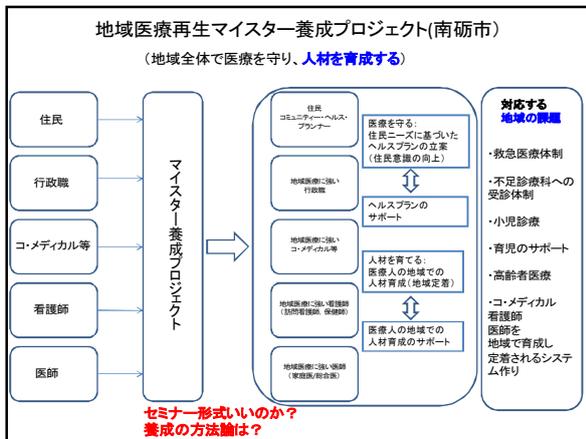
4月25日(土)午後1時30分～午後4時
 アロハム 第1部 地域医療推進 第2部 在宅医療推進
 15:00 退場できる 午後1時30分～午後4時
 南砺市地域再生センター 2F 会議室
 参加費は無料です

第7回 南砺市在宅医療推進セミナー in 城端

南砺市医療局より
 第7回 発行：南砺市医療局 5/23(100) 発行日：平成21年8月

高齢者認知と習熟について -第5回南砺市在宅医療推進セミナー-

7月25日(土)午後1時30分～午後4時
 アロハム 第1部 認知症と高齢者の生活 第2部 在宅医療推進
 15:00 退場できる 午後1時30分～午後4時
 南砺市地域再生センター 2F 会議室
 参加費は無料です



南砺市地域医療再生マスター養成講座

企画責任者：山城清二(富山大学附属病院総合診療部 教授)
 企画責任者：小林俊哉(富山大学地域連携推進機構 特命教授)

目的：
 「地域医療再生マスター養成」を提案し、医療人マスターと住民マスターと呼ばれる人材(コミュニティヘルス・プランナー)を育成する。そして、マスターは各々の立場で地域医療再生のために活躍し、お互いが連携した地域住民参加型の医療システム(医療・保健・福祉・介護の連携、地域での医療人育成システム、隠れた医療資源の活用方法の啓蒙、自ら行う健康活動等のヒューマンネットワーク作り等)の構築を目指す。

今回は講座を5回開講し、初回は総論と各論、2～4回は各論、最終回は報告会とした。講座の内容は北陸先端科学技術大学院大学で開催されている「地域再生システム論講座」を参考にし、政策科学というサイエンスを使って地域の課題に取り組みという手法を使うことにした。これは、講義と議論で成り立っているため、参加者の積極的な態度が重要である。

実施場所：南砺市役所福祉庁舎 2階 講堂
実施日程：
 第1回 平成21年10月2日(金)
 第2回 平成21年10月16日(金)
 第3回 平成21年10月30日(金)
 第4回 平成21年11月13日(金)
 第5回 平成21年12月4日(金)
実施時間：午後6時30分～9時(2時間30分)
実施方法：1時間講義、休憩15分、1時間討論、総括15分

実施内容：

第1回：総論(地域医療の課題、地域再生システム論)
 担当：山城清二、小林俊哉
 各論1(地域再生の取り組み例1)
 テーマ：のびのび能美！ヘルスコミュニティの創造を目指して
 講師：仲井増雄先生(芳珠記念病院 理事長)

第2回：各論2(自己開発法)
 テーマ：自分ごとで働く—成功の宣言—
 講師：近藤修司先生(北陸先端科学技術大学院大学 客員教授)

第3回：各論3(地域再生の取り組み例2)
 テーマ：地域の高齢者と小学生を結びつけるプロジェクト
 講師：小林俊哉(富山大学地域連携推進機構 特命教授)
 発表者：大学院生

第4回：各論4(グループワーク)
 テーマ：取り組むべき課題、四面思考法の復習
 講師：山城清二、小林俊哉

第5回：報告会、まとめ、修了証授与

定員：50名
 医療用5名、医師5名、看護師/保健師10名、福祉職10名、診療技術職5名、住民(婦人会10名、女性職員5名)

評価：
 今年度中に地域住民参加型のネットワークができること。

講座	期	日	時間	講師	発表者	参加者	備考
第1回 総論	1	10/2	18:30-21:00	山城清二		50	
	2	10/16	18:30-21:00	小林俊哉		50	
	3	10/30	18:30-21:00	仲井増雄		50	
	4	11/13	18:30-21:00	近藤修司		50	
	5	12/4	18:30-21:00	山城清二		50	
第2回 各論2	1	10/2	18:30-21:00	山城清二		50	
	2	10/16	18:30-21:00	小林俊哉		50	
	3	10/30	18:30-21:00	仲井増雄		50	
	4	11/13	18:30-21:00	近藤修司		50	
	5	12/4	18:30-21:00	山城清二		50	
	6	10/2	18:30-21:00	山城清二		50	
	7	10/16	18:30-21:00	小林俊哉		50	
	8	10/30	18:30-21:00	仲井増雄		50	
	9	11/13	18:30-21:00	近藤修司		50	
	10	12/4	18:30-21:00	山城清二		50	



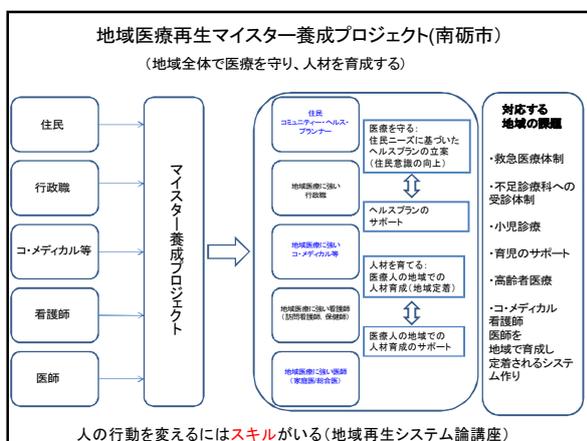
南砺の地域医療を守り育てる会

南砺市に、若い医療関係者を育てる地域になってもらいたい！活発な「教育空間」の形成

(お願い) 医学生/看護学生の地域医療教育の協力

- 1) 医療機関: 病院、診療所
- 2) 保健と介護
 - ・保健所・保健センター/厚生センター
 - ・老人保健施設・特別養護老人ホーム
 - ・包括支援センター、在宅介護支援センター
 - ・訪問看護ステーション、デイサービスセンター、グループホーム
- 3) 地域を知る(地域の良さを体験させる)
 - ホームステイ、合掌作りの民宿

今後の取り組みの核となる組織作り
 マイスターは会員となる



富山大学総合診療部・南砺市民病院
 家庭医/総合医育成一後期研修プログラム

NANTO家庭医養成プログラム

プライマリ・ケア連合学会による後期研修プログラム

理念:

- ①標準的な家庭医の育成
- ②南砺地区の地域医療を守り育てる
- ③地域医療を高度先進医療として取り組む
- ④将来、国際的にも活躍する医師の育成

診療所研修
 南砺市の診療所群(南砺家庭地域医療センター、上平診療所、平診療所、利賀診療所)、ものがたり診療所、白川診療所

まちの病院に必要なこと

地域医療-再生への処方箋(伊関友伸著)より

- ①医療と福祉・健康作りの一体化
- ②本当に医療法上の病院が必要か
- ③地域での総合医・家庭医の養成
- ④医師が納得して働ける環境づくり
- ⑤中核病院としての役割
 - ・かかりつけ医・医師会との連携
- ⑥行政の役割
 - ・行政と医療者のコミュニケーション
 - ・行政内のコミュニケーション
- ⑦住民の役割
 - ・意識改革(お客様ではなく、当事者になる)
 - ・医療の崩壊は地域の崩壊と同じ病理
- ⑧地方議会の役割
 - ・現状を理解すれば推進者、不勉強ならば破壊者になる

「地域の医療は地域の住民が守る」以外にはない

南砺の地域医療を守り育てる会 発足会

2010.2.5
 富山大学附属病院
 総合診療部
 山城清二

守り育てる会の理念

- ① 学びましょう
 - ② 討論しましょう
 - ③ 連携しましょう
- (医療-保健-福祉-介護、行政-住民-医療関係者)
- ④ “自分ごと”として行動しましょう
 - ⑤ 若い人を育てる「教育空間」を作りましょう
 - ⑥ 子どもとお年寄りにやさしい地域を作りましょう
 - ⑦ 住みやすい町にしましょう



今後の方針

- ① 無理しない会
(一部の人に負担がかからない。ひとりでがんばらない)
- ② 学んで自由に討論出来る会
- ③ 自分から行動する会
- ④ 講演会(4月)、平成22年度マイスター養成講座(秋)の企画
- ⑤ 会の企画をみんなで応援する (継続は力なり)
- ⑥ 暫くは組織化しない。(会則など作らず、緩やかな会とする)



第2回南砺の地域医療を守り育てる会

講師: 国保藤沢町民病院 佐藤元美先生
2010年4月24日(土)午後1時30分～4時

・医療と福祉・健康づくりの一体化

モデル: 岩手県藤沢町福祉医療センター

医療・福祉・健康づくりの連携(地域包括ケア)

- ① 藤沢町民病院事業(7事業):

藤沢町民病院(54床)	老健ふじさわ
特別養護老人ホーム光栄荘	グループホームやまばと
デイサービスセンター	訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所	
- ② 保健センター



・総務省が公的病院経営改善事例として紹介

第3回 南砺の地域医療を守り育てる会を終えて



守り育てる会 山城会長

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城清二（富山大学附属病院総合診療部）

今年の1月に発足した南砺の地域医療を守り育てる会は、7月31日に第3回目の講演会を開催した。今回は外部講師を招聘せずに、南砺市民病院長の南眞司先生と富山大学の小林俊哉先生に講演していただいた。その内容を簡単にまとめてみた。

【南眞司先生の講演】

南砺市の地域医療について（南砺市民病院長の立場から）
～幸せに生涯を過ごせる街づくりを市民とともに～
内容

1. 南砺市の地域医療の現状と選択
 2. 2次救急や入院治療の確保
 3. 高齢化の進む南砺市で、家庭や地域で障害・高齢者が安心して過ごせる在宅医療ケアの展開
 4. 幸せに生涯を過ごせる街づくりを市民と共に
 - 1) 地域包括医療・ケアを南砺市全体に広げよう
 - 2) 医師を含めた人材の確保と育成を進めよう
 - 3) 地域住民との協働が地域包括医療・ケアの最終目標
- 長年家庭や地域に貢献してきた高齢者を不幸にしてはいけなし、支える家族も犠牲になってはいけなし。
 - 市民病院と介護福祉支援センターは連携し支援し合っている。
 - 年間の訪問回数や看とり件数は県内では断トツに多い。



南砺市民病院長 南先生

【小林俊哉先生の講演】

地域健康創造の実践例

1. 地域再生システム論の概要
 - 講義→討論→グループワーク→「地域再生計画案」を作成
 - そして、実践となる。その成功例として“のびのび能美”が紹介された。
2. 子ども達の心の健康を地域と一緒に守る（モバイルリテラシー（モバリテ）の事例）
 - 小中学生の携帯電話について
 - 先生方や親の方が情報や知識に乏しかった為、まずは学校現場の先生方への講演活動。
 - 次にお父さんお母さん方への講演、そして子ども達（中学生）への研修を開催。
 - 学校の先生一親一子ども達、これを北陸先端大学がサポート



富山大学 地域連携推進機構 小林先生

3. 利賀村地区での健康調査を実施している。

- ・利賀村から提案された“セカンド定住構想”案
- ・本当に元気なお年寄りが多いのかを調査
- ・利賀村健康調査WGを立ち上げ、生活環境、生活の質、健康疫学の調査を開始

さて二部では、ナースプラクティショナー的ナース養成の取り組み（訪問看護ステーション村井さん）、認知症対策の取り組み（地域包括支援センター荒田さん）、五箇山グループの取り組み（山本さん）が発表された。

また、介護者の会の設立計画（井波在宅介護支援センター藤井さん）も紹介された。マイスターを中心にして、それぞれの分野で活動が行われていることに嬉しく思う。この会の理念である「他人任せにせず、我事として自ら行動する」会になりつつあることを感じたのは私だけであろうか。



活動発表された訪問看護村井所長



南砺の地域医療を守り育てる会は、地域医療を再生するために、地域と大学が共同で取り組む、地域を基盤とした住民参加型プロジェクトである。最近、米国で看護師をしている知人から聞いたが、米国でもこのような取り組みが行われており、NPOを立ち上げたりするなど研究の課題になっているという。英語では、Community-Campus Partnerships for Health Care（地域保健医療に対する地域と大学の取り組み）、Community-based Participatory Research（地域基盤型の住民参加型研究）と言うらしい。

どうやら我々の試みは、地域で行われる一大プロジェクトであり、意義のある研究あるいは実験であるらしい。目の前にある課題の一つひとつ丁寧に取り組んできたことが期せずして大きなプロジェクトに繋がっていることに気付かされた。全国的にもユニークな試みらしい。皆さん、これからも決して先走ることなく、欲張ることなく、謙虚な姿勢で南砺のために頑張っていきましょう。

平成22年度 南砺市地域医療再生マイスター養成講座のご案内

回数	開催日時	場 所	カリキュラム内容
第1回	9月17日（金） 18:30～21:00	南砺市役所福野庁舎 2階講堂	○地域医療の課題 ○地域再生システム論 ○自己開発法 自分ごとで働く
第2回	10月1日（金） 18:30～21:00	南砺市役所福野庁舎 2階講堂	○地域医療の取り組み例1 地域医療に関すること
第3回	10月15日（金） 18:30～21:00	南砺市役所福野庁舎 2階講堂	○地域再生の取り組み例2 子ども達の心の健康を地域と一緒に守る
第4回	10月29日（金） 18:30～21:00	南砺家庭・地域 医療センター	○地域再生の取り組み例3 のびのび能美！ヘルスケアコミュニティ の創造を目指して
第5回	11月12日（金） 18:30～21:00	南砺市役所福野庁舎 2階講堂	○報告会・まとめ ○成果発表 ○修了証授与

第4回 南砺の地域医療を守り育てる会を終えて



守り育てる会 山城会長

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城清二（富山大学附属病院総合診療部）

7年前から新しい臨床研修制度が開始されたが、時期を同じくして地域の医師不足に端を発した地域の医療崩壊という現象が顕著になってきた。必ずしも新制度が問題であった訳ではないが、それをきっかけにして顕著になったことは間違いない。そこで国や県、大学は協力して医学部入学での「地域枠」や「特別枠」を作り、積極的に自県出身者を増やす努力をしてきた。富山大学でも同様で、2,3年前から富山県出身の医学生の割合が徐々に増えてきた。あと7,8年後には今よりも医師不足からくる問題は少なくなっているであろう。しかし、それだけで地域医療はよくなるであろうか。

3年前から、南砺市の地域医療に関わり、そして在宅医療推進セミナーや地域医療再生マイスター養成講座を企画してきた。地域医療の充実を目指してきたつもりであった。しかしながら、ここでしばし考えてみたい。地域医療の目的は何であろうか。医師が増え、病院がよくなることは大事な要素であるが、それだけ良いのであろうか。地域医療の目的は？

その答えは地域住民の安心・安全の確保ではないか。つまり、地域住民の幸福のための医療ではないか。しかし、住民の幸福は医療の充実だけでは達成できない。政治的にも、文化的にも、経済的にも充実して初めて住民の幸福は達成できるのではないか。その中で、健康的な側面の充実（地域医療の充実）は最も基本的な側面ではないか。つまり、住民の幸福のためには、地域医療の充実は最低限の必要条件である。



今回の会に参加された富山大学附属病院 藤井先生(上平出身)



住民の方をはじめたくさんの方が参加されました。

ところで、住民の幸福はどのように達成できるのか。それは、住民にニーズを問うことから始まる。医学の進歩に比べて、世の中の変化は早くなり、社会が複雑になり、価値観が多様化し、そして我々は高齢化社会を迎えた。そんな状況の中、医療者側と住民側の考え方に微妙なずれが生じてはいないだろうか。医療者と住民の考えのギャップ、これが問題である。もし、このギャップが埋まらなければ、医師の数のみ増やしても、決して住民の幸福は達成できなであろう。

「南砺の地域医療を守り育てる会」は、医療者と住民のギャップを埋めるために、住民参加型の医療システムを作り上げる会である。住民のニーズに沿った地域医療を展開するための組織である。今回の会での各グループの発表は以下の通りであった。

- ① 地域での医師不足→地域で医師を育てる仕組み作り：NANTO 家庭医養成プログラム
- ② 訪問看護・リハビリテーションの強化→ナースプラクティショナー的ナース養成講座
- ③ 認知症対策→認知症ネットワークの会
- ④ 地域の健康増進→五箇山グループの活動
- ⑤ 高齢者への取り組み→包括医療・ケアワーキング会議



守り育てる会の各グループによる活動報告

これらは、現在の南砺市の地域の課題に沿った取り組みで、まさに住民のニーズに応えたものである。まだまだ、各グループの成果は出ていないが、今後必ず相応の結果が出てくると思う。従って、今は焦らずに自分達が出来ることを一つひとつ、コツコツと地道に活動していくことが大事である。



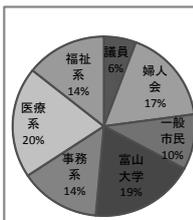
学生さんは世界遺産菅沼合掌造り集落(上平)のライトアップを堪能されました

さて、今回の会には、富山大学の医学生と南砺出身の医師にも参加してもらった。特に、学生には、南砺の魅力を知ってもらうために、午前ダカンボースキー場でスキーを楽しみ、夜は合掌造りのライトアップを体験してもらった。そして、五箇山荘に宿泊し、夜遅くまで地域医療や五箇山の魅力について語り合った。地域医療の魅力は、地域の取り組みを知ってもらうことと同時に、地域の魅力を感じてもらうことから始まると信じて

いる。これからの地域医療は、住民—行政—医療者、そして大学が協力して充実させていくことが必要ではないだろうか。

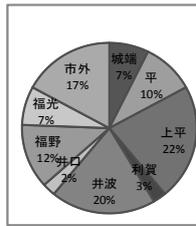
参加者総数 70名

議員	4
婦人会	12
一般市民	7
富山大学	13
事務系	10
医療系	14
福祉系	10



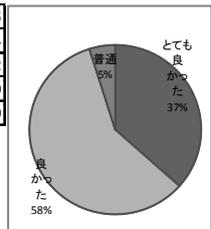
1、どこから来られましたか

城端	3
平	4
上平	9
利賀	1
井波	8
井口	1
福野	5
福光	3
市外	7



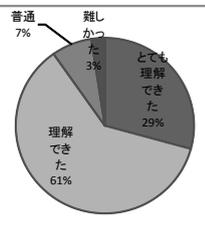
2、講義の内容はいかがでしたか

とても良かった	15
良かった	24
普通	2
あまりよくなかった	0
良くなかった	0



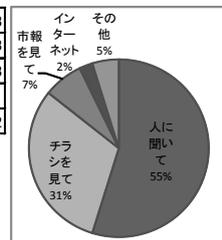
3、内容は理解できましたか

とても理解できた	12
理解できた	25
普通	3
難しかった	1



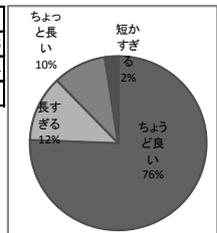
4、講義をどのようにして知りましたか

人に聞いて	23
チラシを見て	13
市報を見て	3
インターネット	1
その他	2



5、講義の時間はいかがでしたか

ちょうど良い	31
長すぎる	5
ちょうど長い	4
短すぎる	1



第5回 南砺の地域医療を守り育てる会を終えて

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城清二（富山大学附属病院総合診療部）



守り育てる会 山城会長と関先生

地域医療の最終目標は、地域住民の幸福である。そして、その地域が活性化することにある。地域の活性化のためには、①政治的な側面、②経済的な側面、③文化的な側面、そして④健康的な側面（医療・保健・福祉・介護）のそれぞれ充実していないと達成できない。我々は住民とともに④健康的な側面を充実させることで、地域の活性化に貢献

できるであろう。ところで、住民の幸福のためには、地域医療の充実が先か地域の活性化が先か、どちらであろうか。私は全ての住民に関わっている地域医療の充実が先であると思っていた。

しかし、今回、地域活性のスペシャリスト、関幸子氏の話聞いて、いささかその思いに変化が生じてきた。地域の活性化が先か？あるいは同時か？少なくとも地域医療の充実の前に地域の活性があるということが分かったような気がする。

それは、今回の講演の影響ばかりでない。先般の東北地方での大震災の際、医療支援のために岩手県釜石市を訪れ、避難所への巡回診療にたずさわったことも影響していると思う。津波で家や建物は破壊されていたが、避難所での人々の繋がり、コミュニティの繋がり、想像以上に温かく強いものがあつた。元々、コミュニティの繋がり強いところであつたと想像される。振り返るに、我々の地域、コミュニティはどうであろうか。もうすでに希薄になっている地域も多いと聞く。この震災後に思うことは、災害対策ばかりでなく、コミュニティの復活の必要性だ。すぐには繋がらない。すぐには復活しない。今後の不断の努力が必要で、この守り育てる会と同様に地道な活動が求められる。



釜石市での震災医療支援



地域活性について重要なヒントを

さて、今回ご講演いただいた地域活性のスペシャリスト、関幸子氏とは東京は三鷹市の中学校時代の同級生である。関氏は昨年より富山市の政策参与に就任し、偶然にも38年振りの再会となった。仕事の内容を尋ねると、全国の様々な地域で地域活性にひと役をかつているという。ちょうど私自身、地域医療の再生には地域活性が必要であると考えていた頃でもあつたので、即座に南砺市での講演を依頼し、今回の企画が実現した。

関氏の話聞いて、印象に残ったことを簡単にまとめる。

大事なキーワードは3つ。

1. 時代は動いている＝日本の変化に気付く、人口減少は待ったなし。

・人口構造の変化

高齢化と少子化が同時に進行。高齢化の場合は高齢化率よりも絶対数で見ることが重要。南砺市の場合、全体の人口が減少するために高齢化率が上がっても高齢者の絶対数はそれほど増えない。ところが、東京等の都会では、人口が増加するので高齢会率が地方よりも低くても絶対数の増加が著しくなる。高齢者の問題は、地方よりも都市部で大きな問題

となる。

2. 社会変化に伴う制度改革＝新たな公共へ、市民と企業もまちづくり、福祉と医療も改革へ。

・地域経営の必要性

自治体自ら稼ぐ時代になってきている。

・公共領域の変革

今こそ、公務員の手腕と実行力が問われる。将来像を明確にし、公共サービスを見直し、財源の確保と使い道を工夫し、土地政策を誤らず、他方面と連携し人材を育成していくことが地方自治体には求められる。

3. 地域で安心して住み続けるためには、地域の自立と市民の役割、人材育成が重要。

・安全神話の崩壊

今回の東北大地震で日本の安全神話が完全に崩れた。今後の地域の安全を守るためには、地域コミュニティの再生が必要となる。

・市民の役割

健康は日常生活の土台である。そして、自らが働くことが重要。

最後に、安心して住み続けるために、答えは足元にある。その発見、気づき、分析が重要で、自らが実践あるのみと言う。

関氏の講演を聞いて、我々の守り育てる会の理念「もう他人任せにせず、自ら行動すること」と重なることが多いことに気付いた。そう、我々の会は時代の流れに乗っている。

それどころか時代を引っ張っていかうとしている。ちょっと言い過ぎか!?



訪問看護 ST 村井所長からの活動報告

さて、第2部では村井さんの「ナースプラクティショナー的ナース (Ns・PT・OT・ST) 養成講習会」の報告と山崎さんの五箇山婦人会の活動報告があった。まだ、具体的な成果は出ていないが、行動は開始されている。いずれ、必ず結果はついてきます。コツコツと地道に頑張っていきましょう。

第6回 南砺の地域医療を守り育てる会のご案内

- ◆日時：平成23年7月30日(土) 午後1時30分～4時
- ◆場所：いのくち椿館 多目的室 南砺市宮後188(井口地域)
- ◆内容：1部：特別講演

講師 国際医療福祉大学大学院医療福祉分野教授 高橋紘士先生

2部：討論

高橋先生は日本の福祉政策・介護保険論・地域ケア研究の第一人者であり、超高齢時代の日本の社会システムのあり方を提唱されています。

現在、東京都社会福祉審議会副会長、(社)日本社会福祉士会理事、日本福祉介護情報学会代表理事、政策評価に関する有識者会議座長(厚生労働省)も務め、日本の福祉政策の推進に取り組まれています。

大変貴重な機会ですので、多数の皆様方のご来場をお待ちしております。



福祉政策の第一人者
高橋紘士先生

第5回 南砺の地域医療を守り育てる会

日 時 : 平成23年4月23日(土) 13時30分～16時00分
場 所 : 南砺市福光会館 2階多目的ホール (旧ベル福光2階)

次 第

1. 開会の挨拶 南砺市医療局管理者 中山 繁實
2. 特別講演 ■テーマ ▶ 地域で安心して暮らし続けるために
～地域の自立と自分の役割～
講師 : ローカルファースト研究所長、富山市政策参与
関幸子 先生

— 休 憩 —
3. 討 論 地域医療と地域活性についてみんなで話し合しましょう

■前回発表グループによるその後の経過・今後の計画など

コーディネーター : 富山大学附属病院 総合診療部
教授 山城 清二 先生
5. 閉会の挨拶 南砺市長 田中 幹夫

第5回南砺の地域医療を守り育てる会 参加者名簿

No.

No	所 属	氏 名	出席
1	南 砺 市 連 合 婦 人 会	山 本 英 子	○
2		村 澤 美 千 代	○
3		関 勝 美	○
4		荒 木 清 美	○
5		長 谷 川 邦 子	○
6		大 塚 千 代	○
7		木 本 る み 子	○
8		竹 中 康 子	○
9		吉 田 和 美	○
10		西 村 貞 子	○
11	更 正 保 護 女 性 会	青 木 真 理 子	○
12		長 谷 川 弓 子	○
13		前 寺 恵 美 子	○
14		仲 村 朋 子	○
15		斉 藤 美 恵	○
16		吉 田 由 里 恵	○
17		織 田 祥 世	○
18		山 田 美 知 子	○
19		吉 田 み ゆ き	○
20		古 池 梶 美	○
21	さ わ や か ネ ッ ト ワ ー ク	野 原 恵 子	○
22		北 厚 子	○
23		長 谷 川 ? 子	○
24		吉 江 哲 子	○
25		大 浦 ま る 子	○
26		俵 映 子	○
27		石 野 順 子	○
28		大 塚 美 代 子	○
29		北 野 昭 子	○
30	市 議 会	斉 藤 光 一	○
31		長 井 久 美 子	○
32		水 口 秀 治	○
33	南 砺 市 女 性 議 会	水 口 ? 子	○

第5回南砺の地域医療を守り育てる会 参加者名簿

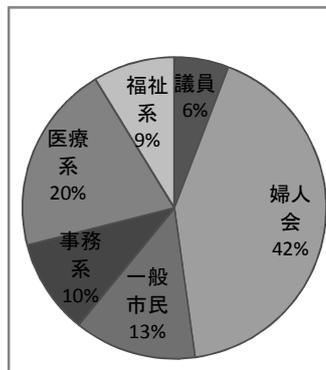
No.

No	所 属	氏 名	出席
34	南 砺 市 長	田 中 幹 夫	○
35	南 砺 市 医 療 局 管 理 者	中 山 繁 實	○
36	民 生 部	三 谷 直 樹	○
37	健 康 課	清 水 哲 郎	○
38		中 原 静 江	○
39	福 光 保 健 セ ン タ ー	渡 辺 洋 子	○
40		井 幡 秋 美	○
41	地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー	田 畠 き よ 子	○
42		森 田 京 子	○
43	井 波 在 宅 介 護 支 援 セ ン タ ー	川 原 洋 子	○
44	ヘルスボランティア	橋 場 君 子	○
45		東 美 子	○
46		中 田 ま り 子	○
47	南 砺 市 民 病 院	南 院 長	○
48		浦 田 幸 女	○
49		谷 村 州 子	○
50		竹 沢 和 美	○
51	公 立 南 砺 中 央 病 院	杉 村 事 務 局 長	○
52		奥 野 芳 隆	○
53		上 島 い づ み	○
54	上 平 診 療 所	塚 原 早 苗	○
55	南 砺 家 庭 地 域 医 療 セ ン タ ー	室 林 修	○
56		坂 ひ と み	○
57		大 窪 摩 利 子	○
58	訪 問 看 護 ス テ ー シ ョ ン	村 井 眞 須 美	○
59		若 松 京 子	○
60		岩 村 正 美	○
61	一 般	明 石 正 治	○
62		石 崎 志 津 子	○
63		井 村 健	○
64		小 林 与 志 子	○
65		山 本 紀 子	○
66		山 崎 智 子	○
67		宮 森 友 子	○
68	北 日 本 新 聞 社	原 田 修	○
69	チ ュ ー リ ッ プ テ レ ビ	榎 谷 茂 博	○
70	北 陸 中 日 新 聞	亀 村 将 央	○

第5回 南砺の地域医療を守り育てる会 参加者アンケート

参加者総数 70名

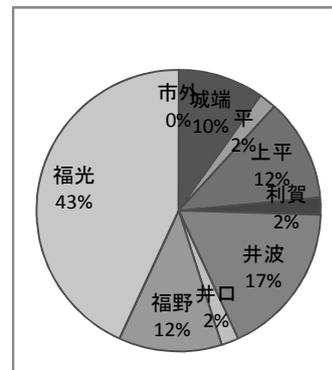
議員	4
婦人会	29
一般市民	9
事務系	7
医療系	14
福祉系	6



n=69

1、どこから来られましたか

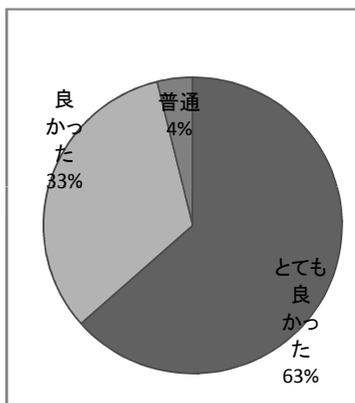
城端	5
平	1
上平	6
利賀	1
井波	9
井口	1
福野	6
福光	22
市外	0



n=51

2、講義の内容はいかがでしたか

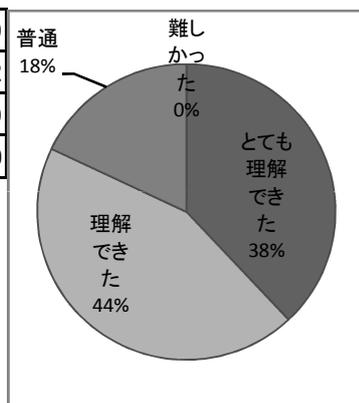
とても良かった	33
良かった	17
普通	2
あまりよくなかった	0
良くなかった	0



n=52

3、内容は理解できましたか

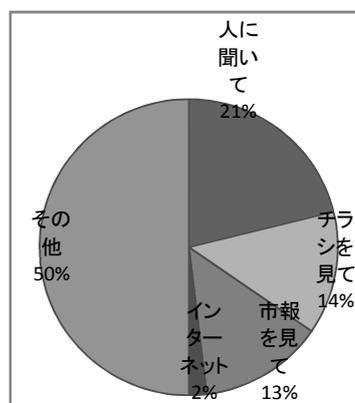
とても理解できた	19
理解できた	22
普通	9
難しかった	0



n=52

4、講義をどのようにして知りましたか

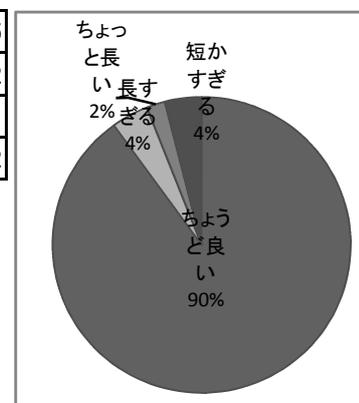
人に聞いて	11
チラシを見て	7
市報を見て	7
インターネット	1
その他	26



n=52

5、講義の時間はいかがでしたか

ちょうど良い	45
長すぎる	2
ちょっと長い	1
短かすぎる	2



n=50

今後取り上げて欲しいテーマや期待する事	意見や感想を自由記載
医療、保健、福祉の連携について。医療に負担をかけない保健・福祉の役割は大切だと思いま 大震災の中、国会議員たちが何も関係ない顔をしているのはおかしい。給料カットしてもよいのではないか。	TV等で田・山等が外国に売買されるのが気になり、行政に委託することを聞き安心した。 講演内容が実に南砺市の将来を見つめ(数字的にも)わかりやすいものだったのでとても良かった。(手元の資料を何度も確認しながらの講演は初めてでした)
地域医療の課題と課題解決への道筋。	来てよかったです。わかりやすいお話でした。知らないことがいっぱいあるなど改めて自分の勉強不足を痛感しました。
地域の人にもっと医療のことを知ってもらいたい。その方法などをテーマにした内容。	医療が中心の話かと思ったが、すべての根源は地域をどうつくるかということなんだということを感じました。
子育てや心のテーマ	病人(患者)の立場から地域医療に関心あり。
コミュニティビジネスおこしに関する情報を(医療・健康をテーマに)	関先生の講義は大変わかりやすく、これからの行政職の考えが大切であることが再認識された。勉強することの大切さ！
災害等が発生した場合、地域住民としてなすべきこと。地域医療を守ると住民の求めに同応じれるのか？元気な住民として考えたいです。	医療は医者や看護師さんほか関係の方々だけに任せするのではない。私たち住民も支えなければならないということが良くわかりまし
老々介護の問題	地域医療を守るため、日ごろの生活の営みをもう一度確認し、生活したいと思います。地域で安心して暮らすため、いろいろな活動をまず自分自身が考えたい。
やはり地域医療です。	とても有意義でした。組織の継続について、貴重なご意見をいただきました。
自治振興会との連携でできること。	自分自身で考え、自分たちで守る、そして実践していくことの大切さをさらに勉強させていただきました。
初めてなので、わかったような、わからないような。これから勉強でしょうか。	これからの高齢者社会に向け、安心してすみ続けていくために、多くのことを学びました。現実に向き合って行きたいと思っております。
	男性の参加がいつも少ないのが気になります。
	75歳くらいまで働ける体力、身体作りを家族で作って行くよう話し合いたい。地域でも話してみようと思います。
	本日の特別講演は高齢者の私にとってとても刺激になる内容でした。世の中の変化を敏感にキャッチする意欲を持って生きていかなければならないと強く思いました。この気持ちが一過性で消えてしまわないように時間の許す限り積極的に学び続けて行こうと思いました。
	関先生の話はとても良かった。私たちが地域のために自ら何かをやらなければという気持ちになりました。
	私も南先生が言うておられるように最後は人づくりだと思えます。私の集落には婦人会がありません。みなさんが役をいただくことはNoだと、婦人会がなくなりました。大変に残念です。どうしたら婦人会を作り直せるか？教えてください
	先生の話はセンセーショナルな内容でした。日ごろ漠然と感じている社会不安を整理された内容でした。

	<p>私は昭和17年生まれの高齢者ですが、老人会を動かして高齢者の体力づくりを考えていましたが、老人会も多忙なため、今後はヘルスボランティアを動かそうとヘルスの資格を取りました。認知症者も踏まえ、地域住民の活動が必要です。老人会のみなさまにも宣伝してください。</p>
	<p>地区公民館を活用し、元気な老人を元氣のまま生活してもらおう。遊び、学び、たいそう、しいては地域で活動してもらおう→子供へのボランティア、読み聞かせetc</p>



第6回 南砺の地域医療を守り育てる会を終えて



守り育てる会 山城会長

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城清二（富山大学附属病院総合診療部）

最近読んだ書に「病院の世紀の理論」（猪飼周平著）がある。その内容は雑誌でも特集されていて、併せて興味深く読んだ。以下、簡単にまとめてみる。

1. 20世紀が治療医学への高い社会的期待によって特徴づけられた世紀であった。
2. 20世紀の医療供給システムのあり方は治療医学からみて合理的なものであった。
3. 20世紀の医療供給システムとして長期的に持続可能な型は3つ。
身分原理型（イギリス）
開放原理型（アメリカ）
所有原理型（日本）
4. 20世紀的医療のあり方は、19世紀以前のものとも21世紀のものとも異なっている。
5. 21世紀現在は、20世紀的医療の終焉の時代に位置しており、その終わり方からみて時代のケアシステムは、一種の地域包括ケアシステムとなる。

ヘルスケアシステムとして、より地域的（地域社会を舞台およびケア資源とする）性格と包括的（保健・医療・福祉が統合される）性格を強めたシステムが必要である。そして、私達にとっての実践的な目標は、単なる地域包括ケア化ではなく、多様な地域包括ケアの可能性の中から優れたケアを選び取ることでなければならない。この選び取る役割は、医師や看護師などの実践家こそが与えられた存在なのである。

我々医療者は、21世紀の医療として優れた地域包括ケアシステムを提供しなければならないと提言されているが、まさに南砺市での試みがそれに相当するのではないかと考えている。

さて、平成23年7月30日に第6回の南砺市の地域医療を守り育てる会が開催された。第1部では特別講演として、高橋紘士先生「地域包括ケアシステムの理念と展開」、そして筒井孝子先生「医療と介護を巡る動向と今後の方向性」というテーマでお話していただいた。



いのくち椿館に集まった参加者



様々な事例を通じた説明

福祉政策、介護保険、地域ケア研究の第一人者である高橋先生のお話は、もしや南砺市の方向性を示されていたのではないだろうか。また、地域活性の例としてテレビのニュース番組で紹介された鹿児島県の“やなだん”の取り組みは衝撃的であった。第5回の「守り育てる会」で医療再生と地域活性の関係性について議論したが、医療の前に地域活性あり、という自論が私の中では確信となった。その他、新潟県長岡市の高

高齢者総合ケアセンターこぶし園、敦賀温泉病院の認知症ケア、また生活機能を高めるためには本人の意欲が最も大事であることを示した山口県の夢のみずうみ村の紹介はどれも高齢者医療を楽しくさせる取り組みで、今後の勉強課題となった。



参加者の質問に答える筒井先生

介護保険制度の中で要介護認定システムの設計を担当された筒井先生のお話は、それぞれが自分は最期をどのように迎えたいのかを考えるきっかけとなったのではないだろうか。介護保険導入時の意識調査では、自分が介護を受ける場合は家族に依存せずに介護サービスを受けたいが、家族が介護を受ける場合には介護サービスを利用しながら自分でもお世話したいということが半数であったという。それが徐々に主介護者に占める嫁の割合が低下している。最近の外来で感じていたことが実際にデータで示されたのでなるほどと合点がいった。また、講義

の中でのお祖母さんがなぜ亡くなったのかということについて、孫に説明したお釈迦様の言葉「それは生まれてきたからだよ」の部分も印象的であった。高齢社会での忘れかけていた死への捉え方を考えざるを得ない状況を思った。

お二人とも難しい内容もわかりやすく、ユーモラスに話してくださった。心に問いかける場面も多く大変勉強になった。同時に理論的な裏付けも必要であると痛感した。今後の南砺市の地域包括ケアシステムにぜひ取り入れていきたいものだ。

さて、第2部では、各グループに活動報告をしてもらった。

- ナースプラクティショナー的ナース養成講習
- 五箇山グループ(婦人会)の取り組み
- 南砺市社会福祉協議会の取り組み
- 包括支援センターの取り組み
- 認知症の家族の会の経過報告

時間が足りずに、全体で深く議論することはできなかったが、今後も地道に活動してほしい。何事も他人事にせず、“自分ごと”として取り組もう。



各グループからの活動発表

第7回 南砺の地域医療を守り育てる会のご案内

日時：平成24年2月4日(土)午後1時30分～4時

場所：福野文化創造センター アートスペース 南砺市やかた100(福野地域)

内容：1部：特別講演

講師 城西大学経営学部教授 マネジメント総合学科 いせき伊関 ともとし友伸 先生

2部：討 論

【講師プロフィール】

東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了。1987年埼玉県入庁、県立精神医療センター・精神保健福祉センター総務職員担当主幹などを経て、2004年、城西大学経営学部助教授、2007年准教授、現在は教授としてご活躍中。専門領域：行政マネジメント、行政学
2006年8月から07年3月まで夕張市病院経営アドバイザーとして夕張市の医療継続に協力。
主な著作「自治体再生戦略」「実践・行政評価」など。

「伊関友伸のブログ」 <http://iseki77.blog65.fc2.com/> ツイッター @iseki_tomotoshi

第7回 南砺の地域医療を守り育てる会を終えて



守り育てる会 山城会長

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城清二（富山大学附属病院総合診療部）

平成24年2月4日（土）に第7回南砺の地域医療を守り育てる会が開催された。昨年秋に、第3期の地域医療再生マイスター養成講座が終わり、この3年間で125名のマイスターが誕生したことになる。

今回の講師には、城西大学教授の伊関友伸先生をお迎えした。第1部講演では、全国の地域医療の実情と問題解決の方法（処方箋）について解説していただいた。その中で、最も印象に残ったことは“地域医療崩壊の原因は住民の心の中にある”ということであった。裏を返せば、医療者と住民がお互いに“共感”し合うことが重要であるということ。このことは、守り育てる会のテーマでもあって、我々の活動も高く評価していただいたことは嬉しい限りであった。これからも、住民とともに医療者と行政者は力を合わせて頑張っていきたい。

また、第2部では、グループの取り組みの発表があった。まだまだ成果の出ていないグループもあるが、確実に前進しているという手応えはあったように思う。焦らずにゆっくりでもいいので、少しずつ進んでいきたい。

第1部：特別講演のまとめ

講師：城西大学経営学部

経営マネジメント総合学科教授 伊関友伸先生

テーマ：「地域医療再生への処方箋」



地域医療再生の処方箋について（伊関先生）

【医師不足の原因】

- ・少ない医師数
- ・医療の高度・専門化
- ・インフォームドコンセント、医療安全
- ・女性医師の増加
- ・劣悪な労働環境
- ・新臨床研修制度、大学医局制度の崩壊、成長する病院と衰退する病院の2極化
- ・国民の医療への不理解
- ・健康について不勉強な患者の存在
- ・患者のコンビニ医療指向

【医師が勤務したくなるような地域にするには】

- ① 行う医療を明確にする（あれもこれも求めない）：総合医に必要性
- ② 過酷すぎない勤務
- ③ 医療技術が学べる、自己が成長できる
- ④ 専門医の資格がとれる施設、人材育成にお金をかける、患者さんの協力が必要
- ⑤ 適切な報酬
- ⑥ 住民の感謝、適切な受診行動

【地域医療崩壊の原因は住民の心の中にある】

- ・地域の孤立と不安の増大
- ・孤立と不安が医療資源の過剰な消費を呼ぶ
- ・病院（医療）は住民の不安そのものを解決できない

【無関心と人任せ】

- ・自分の体への無関心—医師に丸投げ、医師に立場を考えない
- ・制度と強制では隙間が生じる。「共感」による人の積極的な行動が隙間を埋める
- ・すべて「人任せ」では地域医療は崩壊する
- ・自治体病院の危機や医師不足問題が地域の民主主義の質を向上させる。
- ・地域医療の再生は民主主義の再生のつながる
- ・地域のレベルが、その地域の医療レベルを決める
- ・地域医療を守るのは皆さんの努力次第です。

【その他】

- ・地域医療・福祉・介護は地域の産業になる。
- ・視察などでは、南砺市に施設に宿泊してもらおう。
- ・講演でも、南砺市の施設に宿泊してもらおう。そして、地域を見てもらう（五箇山など）

2部：各グループの活動報告まとめ

① ナースプラクティショナー的ナース養成講座

成果：

- ・PT/OT～研究発表、リハビリ新聞の発行
- ・ST～勉強会の開催
- ・看護師～積極的な講習会への参加、認定看護師資格取得の希望者、日本看護協会の取材
- ・2012年5月、米国のNPによる講演会の企画

② 包括医療・ケアワーキング会議

- ・目的と構成メンバー

目的：域の包括医療・ケアの推進に向けて、南砺市の医療・保健・福祉・介護サービス整備の基本的な考え方や方向性について、総合的に協議、調整を行う。

役割：次の事項について協議、調整を行い、医療協議会へ提言する。

- (1) 医療・保健・福祉・介護整備の基本的な考え方や方向性に関すること。
- (2) 地域包括医療・ケア推進に向けて、地域で確保する医療・保健・福祉・介護機能に関すること。

構成：市の関係所属職員 14名

福祉課、健康課、地域包括支援センター、医療局、南砺市民病院地域連携科、公立南砺中央病院地域連携室、井波在宅介護支援センター、訪問看護ステーション

- ・地域医療ケアの課題への挑戦、ネットワーク作り、地域支え合い体制の構築

① 認知症への取り組み

- ・認知症高齢者徘徊 SOS 緊急ダイヤルの設置と模擬訓練開始

② だんない茶の会

- ・現状報告と問題点、今後の取り組み
- ・大きな目標「南砺市での地域医療・福祉の連携のかけはし」

③ 「なんと住民マイスターの会」の発足と取り組み

- ・2011年10月7日にマイスター養成講座修了者が中心となり発足
- ・地域包括医療・ケアのパンフレット作り
- ・地域回想法の学習（2月24日—25日に、北名古屋市回想センターと昭和日常博物館を視察）



各グループからの活動報告

第8回 南砺の地域医療を守り育てる会を終えて



守り育てる会 山城会長

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城 清二（富山大学附属病院総合診療部）

先頃、第8回南砺の地域医療を守り育てる会が開催された。今回は外部からの講師ではなく、南眞司先生と私が講演することになった。南先生が南砺市での助け合いの大切さと地域医療に対する熱い思いを語り、私はこれまでの3年間の取り組みのまとめを報告した。

第1部：

南砺市の地域包括医療・ケアについて

南砺市民病院 南眞司先生

4つの「助け合い」を地域で作り上げることが重要。

1. 共助：医療・介護保険、在宅支援体制
地域医療連携部会の役割
2. 自助：本人の努力と家族の協力
退院前多職種カンファレンスの取り組み
3. 公助：福祉・行政サービス
南砺市医療協議会、地域包括医療・ケア ワーキング会議の役割
4. 互助：地域住民の意識改革と協力
マイスター養成講座、総合医・家庭医育成プログラム



4つの助け合いに南砺市は努力しているが、南砺の地域医療を守り育てる会の役割は4番目の互助の取り組みである。特に、婦人会の方々の参加の意義は大きい。

南先生の熱き思い：

- ・社会貢献されてきた高齢者を不幸にしてはいけない。その高齢者を支える家族も犠牲にしたり不幸にしたりしてはいけない。
- ・約 5.5 万人、31.5%の超高齢社会の南砺市で、医療・保健・福祉介護や行政、住民の方々と苦楽を共にして、幸せな生活（QOL）を支える地域包括医療・ケアを創造したい。

今年度の南砺市の新しい取り組みとして、医療、福祉と介護を管理する「地域包括医療ケア局」を新設した。さらに、平成 25 年 10 月に介護保険推進全国サミット in 南砺が開催される。

富山大学附属病院総合診療部

山城清二

キーワード：継続は力なり

この3年間の取り組みのまとめ：

地域医療再生マイスター養成講座（3年間で125名のマイスターが誕生）

第1期（平成21年）修了者44名

第2期（平成22年）修了者43名

第3期（平成23年）修了者38名

南砺の地域医療を守り育てる会（毎年3回の定期開催となる）

第1回（平成22年2月5日）参加者131名

外部講師：細谷亮太先生

第2回（平成22年4月24日）参加者106名

外部講師：佐藤元美先生

第3回（平成22年7月31日）参加者67名

外部講師：なし 講師：南眞司先生

第4回（平成23年2月5日）参加者70名

外部講師：なし 講師：山城清二

第5回（平成23年4月23日）参加者70名

外部講師：関幸子先生

第6回（平成23年7月30日）参加者65名

外部講師：高橋紘士先生、筒井孝子先生

第7回（平成24年2月4日）参加者76名

外部講師：伊関友伸先生

第8回（平成22年4月21日）参加者90名

外部講師：なし 講師：南眞司先生、山城清二



田中市長からも南砺市の地域包括医療・ケアの取り組みについて（次回の第9回の守り育てる会（7月21日）で特別講演をされます）



住民マイスターが制作に取り組んだ
地域包括医療・ケアパンフレット

第2部：各グループの活動報告

①住民マイスターの会

- ・地域回想法ビデオ（供覧）
- ・北名古屋市回想法センター、昭和日常館の視察（平成24年2月24日～25日）の報告
- ・パンフレット“なんとすこやか なんと安心”のお披露目

②ナースプラクティショナー的ナース養成講座

- ・2年間の講習会の報告

③五箇山婦人会グループ

④認知症ネットワークの会（資料のみ）

⑤地域包括支援センター（資料のみ）

マイスター養成講座は3期（3年間）が終了し、また守り育てる会は今回で8回目となった。講座も守り育てる会も定期的に同じ形式で開催されてきた。今回のキーワードは“継続は力なり”であるが、今やっとその意義が体感できるようになった。一人ひとりの意識の変容が知らぬ間に起こり、チームとして仲間として行動できるようになった。それぞれの取り組みは決して派手ではないが、確実に進歩してきている。県内県外の他の地域でも様々な取り組みがなされているが、活動自体が楽しいと思えるのはこの南砺市の特徴ではないだろうか。様々な職種の枠を超えて連携できることが、これ程楽しく且つやる気を起こさせるものだったとは。特に、意識せざるともごく自然な感情として、それは我々の中に生れてきているのだろう。おそらく我々は昔ながらの“絆”を大切にしたいと思っているのだろう。皆さん、これからもこの“絆”の輪を広げられるように、楽しく活動していきましょう。



職種を超えて集まる
守り育てる会の参加者のみなさん



参加費無料

第9回 南砺の地域医療を 守り育てる会 in ふくみつ

第1部
特別講演
13:30~

「南砺の地域包括医療・ケアについて」
講師：南砺市長 田中 幹夫

「厚生労働省 派遣1年生奮闘記」
講師：厚生労働省老健局 齊藤 直樹

第2部
活動発表
討論
15:00~

「地域医療再生マイスター養成講座」から
生まれたグループの活動発表
地域医療と地域福祉についてみんなで話し合しましょう

みんなで地域医療
について考えてみ
よう！

【講師プロフィール】

齊藤 直樹 南砺市職員。平成24年4月より、南砺市から厚生労働省老健局高齢者支援施設係へ研修生として派遣。地域密着型サービス拠点等の整備交付金、特別養護老人ホームの運営及び基準等を担当。

開催日 2012年7月21日(土)

時間 13:30~16:00

会場 南砺市役所福光庁舎別館 3階ホール 南砺市荒木1550

お問い合わせ先 0763-23-1003

主催：南砺市地域包括医療・ケア局
医療課（南砺市松原577）

第9回 南砺の地域医療を守り育てる会を終えて



守り育てる会 山城会長

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城清二（富山大学附属病院総合診療部）

7月21日に開催された守り育てる会（スタッフを含め106名参加）では、田中幹夫南砺市長と厚生労働省への派遣職員の齊藤直樹さんが講演された。住民・医療職・行政職の中で、南砺市全体を見ているのはやはり行政である。そして、行政職の役割はこの守り育てる会の要でもある。様々な課題への取り組みでは、ある時は医療職が中心であり、時に住民が中心になるが、常に大所高所からサポートするのは行政

の役目であると思う。南砺市のリーダーである田中市長さんは情熱的かつユーモアもあり、人を引き付ける天賦の才能が備わっているように感じる。また、中央で勉強している齊藤さんには今後活躍してくれそうな未来を感じた。

第1部：

田中幹夫市長

「南砺市の地域包括医療・ケアについて」

印象に残ったフレーズをまとめると次のようになる。

- ・ほめる達人になりましょう！ 拍手は力一杯！ 話を聞くときは首を大きく、うなづく！
- ・家で職場で。3S「さすが。すてき。素晴らしい」+ 1S「そう来たか！ そうとも言う」

市民幸福度：

- ・利他市民のまち なんと
- ・ブータンGNH → グロス・南砺・ハッピネス
- ・生まれてきて良かった。住んでいて良かった。これからも住み続けたい。そんな「南砺に決めた！」

エコビレッジ構想：

- ・地域の自立のもう一つの形。「環境保全・エネルギー」「第一次産業 農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」のいのちの4分野の連動

3つのお願い：

- ・絆を強めましょう！ 健康で長生き！ 学びましょう！

最後に

- ・素晴らしい。心より感謝
- ・難題の無い人生 無難な人生、難題の有る人生 有り難い人生。（筆談ホステスより）

齊藤直樹さん

「厚生労働省派遣1年生奮闘記」

ピッカピカの中央への派遣1年生で、一所懸命に学ぼうとしている姿に応援したくなるような講演であった。是非、全国の先進的な事例の研究と来年に開催される介護サミットの準備に頑張ってもらいたい。頑張れ、齊藤さん！



田中市長から南砺市の取り組みと市長の熱い想いを。

講演の内容

- ① 厚労省の説明
- ② 仕事の内容

老健局の高齢者支援課に勤務

- (1) 特別養護老人ホームの運営及び設備基準の解釈
- (2) 介護基盤の整備日関係予算
- (3) 介護施設等への復興支援
- (4) その他

- ③ 抱負

介護保険制度の理解

様々な福祉制度の現状と把握

国の福祉政策の方向性

全国自治体の先進的事例・取り組みを学ぶ

「地域」に求められる福祉とは。南砺市のニーズと地域性に合った福祉サービスの提供



厚労省派遣の斉藤さんからは厚労省での仕事の内容や抱負を発表



なんと住民マイスターの会では「地域回想法」の取り組みについて発表

第2部の報告：

- ① 病院総合医育成プログラムについて
- ② ナースプラクティショナー的ナース養成講習会
- ③ 包括医療・ケアワーキング会議の取り組み
- ④ 認知症ネットワークの取り組み
- ⑤ 「なんと住民マイスターの会」の取り組み
- ⑥ 高齢者サロンの取り組み
- ⑦ だんない茶の会の取り組み（資料のみ）

南砺の取り組みが継続している秘密はどこにあるのか。この3年間で振り返ると、地域医療再生マイスター養成講座と南砺の地域医療を守り育てる会の存在が大きいように思える。そして、次の目標として、この継続が南砺市全体へ広がるようにみんなで力を合わせて頑張っていきましょう。

第10回 南砺の地域医療を守り育てる会のご案内

- ◆日時：平成24年9月15日（土）午後1時30分～4時
- ◆場所：平若者センター 春光荘（平行政センター併設）
- ◆内容：1部：特別講演
「地域回想法」～時をつなぎ、人をつなぎ、町をつなぐ～
講師 国立長寿医療研究センター 内科総合診療部長 遠藤 英俊 先生
2部：活動発表・討論

【講師プロフィール】

1982年、滋賀医科大学卒業。1987年、名古屋大学医学部大学院修了。その後、市立中津川総合病院内科部長、国立療養所中部病院内科医長などを経て、現在に至る。老年病専門医。日本認知症学会理事。著書に『認知症・アルツハイマー病がよくわかる本』（主婦の友社）、『地域回想法ハンドブック』（河出書房新社）、『いつでもどこでも「回想法」』（ごま書房）など多数。

第10回 南砺の地域医療を守り育てる会を終えて

南砺の地域医療を守り育てる会 会長
山城 清二（富山大学附属病院総合診療部）



守り育てる会 山城会長

平成 24 年 9 月 15 日に五箇山で第 10 回の南砺の地域医療を守り育てる会を開催しました。今回は、認知症研究で大変有名な遠藤英俊先生をお招きし、地域回想法について講演していただきました。遠藤先生は、新聞やテレビ等でも活躍され、講演活動では全国を飛び回っている方です。大変お忙しい中、名古屋から日帰りという強硬スケジュールで来ていただき感謝申し上げます。講演では地域回想法を提唱した経緯など、最新の情報をも提供していただ

き大変勉強になりました。下記のように講演の内容を箇条書きでまとめました（詳しくは講演資料を参考にして下さい）。

第 1 部

国立長寿医療研究センター

内科総合診療部長 遠藤英俊先生

テーマ：「地域回想法」～時をつなぎ、人をつなぎ、町をつなぐ～

- ・ 認知症の非薬物療法の研究から地域回想法に辿り着く。
- ・ 目的は“思い出す”
- ・ 回想法センター、日本初にはお金がついてくる。
- ・ 結果的にサロンづくりとなった。
- ・ “楽しい、参加型”が決め手。
- ・ 初めは、道具の貸し出し。次に、テレビ回想法、作業療法、パソコン回想法、バーチャル回想法と様々な試みを行った。
- ・ 認知症は約 300 万人、その予備軍が約 300 万人いる。予備軍への対応が重要。
- ・ 予防から始まり、健康作り、人作り、地域作りへ繋がった。世代間交流、“絆”。
- ・ 大事なことは“研修”である。つまり、リーダー作りである。そして、その研修のシステム化である。
- ・ 回想法の効果は、認知症高齢者への効果、介護者への効果、介護予防への効果、地域の町づくりへの効果となった。
- ・ 認知症患者への効果：残存能力を引き出す
- ・ 家族への効果：介護者の負担が減る
- ・ 職員への効果：関係性が促進
- ・ 介護予防への効果：自尊心が高まる



認知症研究の第一線でご活躍の遠藤先生

- ・地域の町づくりへの効果：交友関係、グループの絆、活動の提案、定期的な集まり、行事など地域の町づくりへ発展。
- ・評価は短期効果と長期効果を調べた。
- ・一般的な認知症の予防では、運動、赤ワイン、会話すること。
- ・地域回想法は始めるにあたり、人、金、場所は必要である。初めの3年間は大変であった。四苦八苦して取り組んだ。
- ・かかりつけ医（サポート医）が参画した早期からの認知症高齢者の支援体制の必要性。



ミニ回想法コーナー

遠藤先生が最も強調していたことは、地域回想法に取り組むための“研修”でした。そして、そのリーダーを育成すること（回想法リーダー養成）がポイントとのこと。そこで次なる我々の活動は、住民マイスターの会が10月7日に開催する、思い出ガイド養成講座の企画です。そして、10月27日に名古屋で開催される温故知新フェスタに参加する予定です。

第2部

氷見市立博物館

小谷 超（おだに すすむ）さん

「氷見市立博物館の地域回想法の取り組み」

平成23年度から介護施設等と連携して富山県で初めて地域回想法を開始。

その取り組みは、介護施設利用者の無料入館、民具等の貸し出し、そして介護職員の研修。

まだまだ課題はあるが、地域回想法を継続している予定である。



氷見市立博物館の取り組みを紹介

グループ発表：

- ① なんと住民マイスターの会の取り組み
- ② 五箇山グループの取り組み
- ③ 訪問リハ新聞の現状と今後



各グループからの活動発表

グループの活動も以前に比べてより具体的になったように感じました。各々の専門分野で自ら行動することが重要です。そして、守り育てる会を通して、グループが繋がっていくことで次のステップへ踏み出せそうです。皆さん、一緒に頑張りましょう。